

リアホナ

主はよみがえりであり、
命であられる, 4, 12ページ

神の全能なる御子についての^{あかし}証, 16ページ

お返しできないほど受けているので, 56ページ

子供たちの芸術作品 ——

わたしの生活の中の福音の祝福, 62ページ



©Scala/Art Resource, New York

「この人を見よ (Ecce Homo)」 アントニオ・チゼリ画

「ピラトは、祭司長たちと役人たちと民衆とを、呼び集めて言った、『おまえたちは、この人を民衆を惑わすものとしてわたしのところに連れてきたので、おまえたちの前でしらべたが、訴え出ているような罪は、この人に少しもみとめられなかった。……

だから、彼をむち打ってから、ゆるしてやることにしよう。』

[祭ごとにピラトがひとりの囚人をゆるしてやることになっていた。]

ところが、彼らはいっせいに叫んで言った、『その人を殺せ。バラバをゆるしてくれ。』……

ピラトはイエスをゆるしてやりたいと思って、もう一度かれらに呼びかけた。

しかし彼らは、わめきたてて『十字架につけよ、彼を十字架につけよ』と言いつづけた。

ピラトは三度目に彼らにむかって言った、『では、この人は、いったい、どんな悪事をしたのか。彼には死に当る罪は全く^{あた}みとめられなかった。だから、むち打ってから彼をゆるしてやることにしよう。』

ところが、彼らは大声をあげて詰め寄り、イエスを十字架をつけるように要求した。……

ピラトはついに彼らの願いどおりにすることに決定した。……イエス〔を〕彼らに引き渡して、その意のままにまかせた。(ルカ 23:13-14, 16-18, 20-25)



メッセージ

4 大管長会メッセージ——
そのかたは、
ここにはおられない。
よみがえられたのだ。
トーマス・S・モンソン大管長

7 家庭訪問メッセージ——
扶助協会の目的

特集

20 いつも御子を覚えるために
D・トッド・クリストファーソン長老
救い主を覚えておくための3つの
方法



表紙
表紙——「わたしは平安をあなたがたに残して行く」ウォルター・レーン画、教会歴史美術博物館の厚意により掲載

28 レベッカ・スウェイン・ウィリアムズ——
「確固として揺らぐことなく」
ジャニス・リン・ジョンソン
たとえ自分自身の家族の反対に遭っても彼女は福音に対する信仰を失いませんでした。

32 マーシャル諸島で
まっすぐに航海する
ジョシュア・J・パーキー
わたしたちは時に狭くて細い道を見いだせるよう助けてくれる人が必要です。

シリーズ

8 小さな、簡単なこと

11 教会での奉仕——
「このすべてがわたしを祝福しています。」
マイケル・R・モリス

12 わたしたちが信じていること——
イエス・キリストはわたしたちの罪を贖われた

14 キリストについて語る——
悔い改め、主に立ち返り、癒される
デビッド・L・フリッシュニクト

16 福音クラシック——
ゲツセマネの清めのカ
ブルース・R・マッコンキー長老

38 末日聖徒の声

74 教会のニュース

79 家庭の夕べのためのアイデア

80 また会う日まで——
いばらの冠、勝利の冠
ラリー・ヒラー



42

42 聖約は永遠です

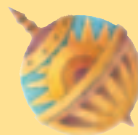
マルタ・バレンシア・バスケス

若い女性のころ、当時はまだコスタリカには神殿はありませんでしたが、いつの日か神殿に行くことを決意しました。

44 やっと耳を傾ける

匿名

マデリーンとデートしている間中、御霊が高い標準の相手とだけデートするようにとささやき続けました。



こんげつごう なか
今月号の中に
かく 隠れているリアホナを
さが 捜しましょう。
ヒント—
うつく ひめさま
美しいお姫様

46 質疑応答

「わたしの家族は、教会に集い、家庭の夕べを開き、福音に従った生活をしようと努めています。それでも問題が起こるのはなぜですか。ほかにもっとできることがあるのですか。」

48 ポスター—
いつも主を覚えなさい

49 教えに教え—
教義と聖約 76 : 22 – 24

50 再建を通して得たもの

アシュレ・ダイヤー

地震で崩れた建物のがれきの中で、わたしは自分という個人の価値を見いだしました。

52 聖文の力

アダム・C・オルソン

タヒチに住むこの二人の10代の若者は、聖文を試しに読んでみただけで人生が変わりました。

55 伝道地から—
祝福文の中のヒント

スコット・タルボット

56 仲保者イエス・キリスト

ボイド・K・パッカー会長

貸し主と借り手のたとえが正義と憐れみと贖いについてよく理解できるよう助けてくれます。

50



70

59 ニヤの選び

マルセル・ニユンギ

お店の人のくれたおつりが多かったことに気づいたとき、ニヤはどうすべきか決めなければなりませんでした。

60 復活祭の週

わたしたちにとって復活祭は一日だけのお祝いですが、救い主にとっては1週間分の出来事が詰まっていました。

62 せかいじゅうの子どもたちのさくひん

りょうし、しんでん、せんきょうし、そのほか、たくさんのさくひんがあります。

65 とくべつなしょうにん

リチャード・G・スコット長老

どうすれば世の中のわるいものから遠ざかっていることができるでしょうか。

66 しょうきょうかいを かけていても—
イエス・キリストは

わたしの すくいぬし、あがないぬしです

アナ・マリア・コバーン、
クリスティーナ・フランコ

68 家に いることが しあわせ

チャド・E・ファレス

カンボジアにすむ兄と、いもうとが、どんなときが しあわせかを はなしてくれます。

70 ちいさな おともだちへ

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,000円(送料共)
普通号/大会号 150円

[リアホナ]へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。
Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

[リアホナ]は、www.liahona.lds.orgに様々な言語で掲載されています。[リアホナ] (モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意) は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスラマ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ヒンディー語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2011 Intellectual Reserve, Inc. 版權所有。印刷: 日本

[リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada: April 2011 Vol. 35 No. 4. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431) POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org [英語]

成人



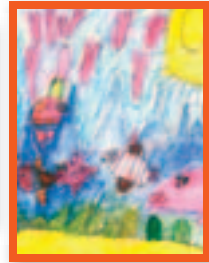
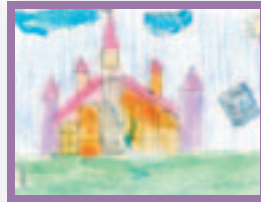
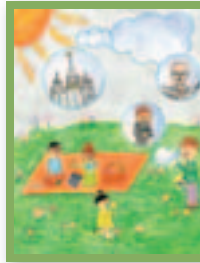
マーシャル諸島の会員たちの改宗談をお読みください (32 ページ)。 www.liahona.lds.org の写真もご覧ください。

青少年



タヒチに住む二人の10代の若者がマスター聖句を学んで生活が変わった経験をお読みください (52 ページ)。 www.seminary.lds.org にもっと詳しい情報が掲載されています。

子ども



62 - 64 ページで

せかいじゅうの 23 の さくひんを みましよう。

www.liahona.lds.org で

ほかの さくひんも みるこが できます。

あなたの言語で

www.languages.lds.org で、[リアホナ] や教会のその他の資料を

多くの言語で入手できます。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

愛, 41

贖い, 12, 14, 16, 39, 66

憐れみ, 56

イエス・キリスト, 4, 12, 14,

16, 20, 48, 49, 56,

60, 66, 80

祈り, 40

癒し, 80

改宗・改心, 28, 32, 38

家族, 46

活発化, 32

神の特質, 70, 72

義, 65

逆境, 46

教会指導者, 9

教会歴史, 8

悔い改め, 12, 14, 32, 39

芸術, 62

個人の価値, 50

才能, 62

正直, 59

職業, 9

信仰, 32

新約聖書, 60

救いの計画, 41

正義, 56

聖餐, 20, 48

聖文研究, 52, 68

聖約, 42

聖霊, 44

セミナー, 52

伝道活動, 28, 55

道徳, 42, 44

標準, 44

扶助協会, 7

復活, 4, 16, 49, 60

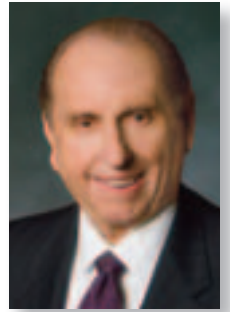
奉仕, 11, 41, 50

模範, 32

預言者, 10

そのかたは、 ここにはおられない。 よみがえられたのだ。

トーマス・S・
モンソン大管長



ガリラヤにおける救い主の務めの中心地であった湖岸の町カペナウムは、今日、廃墟だけが残っています。この地であって、主は会堂で教えを説き、海辺で教え、家々で病人を癒されました。イエスはその務めを始めたころ、イザヤ書の次の言葉を読まれました。「主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ〔るためである。〕」（イザヤ 61：1。ルカ 4：18も参照）神の息子、娘を救助するための神の計画についてはっきりと宣言されたのです。

しかしイエスのガリラヤでの宣教は、ほんの序章にすぎませんでした。

人の子は、ゴルゴタと呼ばれる丘に行かなければならないという恐ろしい定めを常に負っていました。

最後の晩餐の後にゲツセマネの園で捕らえられ、弟子たちに見捨てられ、人々につばきを吐きかけられ、裁かれ、辱められ、イエスは御自分の大きな十字架を背負い、よろめきながらカルバリに向かわれました。勝利から裏切り、苦悶、そして十字架上の死へと進まれたのです。

「聖なる都」(The Holy City) という歌には次のようにあります。

情景は変わった。……
肌を刺すような冷たい朝、
寂しい丘に
十字架の影が現れた。¹

わたしたちのために、天の御父は

御子を与えてくださいました。わたしたちのために、わたしたちの長兄は御自分の命をささげてくださいました。

最後の瞬間に、主は後戻りすることもおできになったでしょう。でも、そうはされませんでした。主はすべてのもの、すなわち人類と地球とかつてそこに住んだすべての命を救うために、すべてのものの下に身を落とされました。

クリスチャンが手にしている聖典の中で、涙を流すマグダラのマリヤともう一人のマリヤに天使が告げた言葉ほど、わたしにとって大きな意味を持つ言葉はありません。主の亡骸の手入れをするために彼らが墓に近づいたとき、天使は次のように言いました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」(ルカ 24：5-6)

この宣言とともに、かつて生を受け、死んでいった人、現在生きていて、いつの日か死んでいく人、そしてこれから生まれ、死んでいく人が救助されたのです。

キリストが墓に対して勝利を得られた結果として、わたしたちは皆、復活します。これが贖い^{あがな}です。パウロは次のように記しています。

「天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と



違っている。

日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。

死人の復活も、また同様である。」(1コリント15:40 - 42)

わたしたちが求めているのは日の栄えの栄光です。わたしたちが望んでいるのは神の前に住むことです。わたしたちが望んでいる家族は永遠の家族です。

終わりのない死からわたしたち一人一人を解放してくださった御方について証します。この御方は真理の教師ですが、教師以上の御方です。完全な人生の模範を示されましたが、模範者以上の御方です。偉大な医者ですが、医者以上の御方です。この御方は文字どおり、世の救い主、神の御子、平和の君、イスラエルの聖者、復活された主であられます。そしてこの御方は次のように宣言しておられます。「わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。」(教義と聖約110:4)

「ああ、喜びの言葉 『主は生けりと知る[。]』」²

このことを証します。■

注

1. フレデリック・E・ウェザリー、
“The Holy City” (1982年)
2. 「主は生けりと知る」『賛美歌』
75番

このメッセージから教える

良い教師は自分が教える人々の間に一致を促します。学んでいる人が互いに敬意をもって自分の考えを話し、耳を傾け合うとき、積極的に学ぶ雰囲気だけでなく、さらなる一致も生まれます(『教師、その大いなる召し』63参照)。イエス・キリストの贖罪と復活について

あなたが敬虔に証を述べ、教えている人々にも証を述べてもらうとき、互いの間に一致がはぐくまれるでしょう。この一致は「永遠の家族」になるようにというモンソン大管長の勧めに家族が従う助けとなります。



主は天の家に帰る道を
示してくださいました



「**主**は地上に来て、天で作られた計画に従って生活する方法を示されました。その計画どおりに生活するなら、わたしたちは幸福になれるのです。救い主の模範は天の御父のみもとに帰る道を示しています。主ほど『確固として揺らぐこと〔のない〕』御方はかつておられませんでした（モーサヤ5：15）。主の思いはそれることなく、御父の御心みこころを行うことだけに向けられていました。主は神聖な使命に忠実であられました。……

皆さんは、前世で提示されたすばらしい計画の中にいます。皆さんは、計画を受け入れたときから、今の時代に地上に来ることを心待ちにしていました。皆さんが今ここにいるのは偶然ではないのです。前世における皆さんの『非常に深い信仰と善い行い』は（アルマ13：3）、現世にあって忠実で従順であるなら、今地上で達成することの土台となります。……〔皆さんには〕なすべき偉大な業があります。神聖な使命を果たし、幸福の計画に添って生きるために、皆さんも……確固としていなければなりませんし、揺らいではなりません。』

中央若い女性会長 イレイン・S・ダルトン
「いつでも、どのようなことについても、どのような所ところにいても」
『リアホナ』2008年5月号、116

子ども

わたしたちは えいえんの かぞくに なれます

すすくいぬしの しょくざいの ちからちからによって、わたしたちは しんあだあとも また かぞくと いっしょに いることができると、モンソンだいかんちょうは おしおしていましたいます。下の しじに したがって、この かぞくを いっしょに してあげましょう。

しじひだり——左のかぞくは、しによって ばらばらに なり、すくいぬしからも はなれて しまっています。このページを コピーするか、www.lds.org から いんさつするか、または 自分で 絵をかいて、すくいぬしが どのように わたしたちを いっしょに して下さるかをしめてみましょう。下の 星ほしじるしが かさなるように 点線てんせんのところを おり、くらい ぶぶんが かくれるように してください。





信仰・家族・扶助

扶助協会の目的

祈りをもってこの資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

わたしたち会長会が最初に召されたとき、扶助協会の歴史に関する資料を渡されました。わたしたちはよく祈りながら研究しました。扶助協会の目的と、主がわたしたちに何を行うように望んでおられるのかを知りたいと思ったのです。そして主によって設立された扶助協会の目的は、永遠の命の祝福を受ける備えができるように、主の娘たちを組織し、教え、鼓舞することであるということを知りました。

この扶助協会の目的を達成するために、主は姉妹の一人一人に、そして扶助協会全体に、次のことを命じておられます。

1. 信仰と個人の義を増し加える。
2. 家族と家庭を強める。
3. 主に仕え、主の子供たちに仕えることによって人々に必要なものを与える。

わたしたちは個人の啓示を求め、受け、それを実行するときのみ、この業を主の方法で行うことができます。個人の啓示なしには、成功はありません。個人の啓示に注意を向けるなら、失敗はあり得ません。預言者ニーファイは、聖霊はわたしたちに「なすべきことをすべて」示してくださいと教えています（2 ニーファイ 32：5）。御霊の声に耳を傾けられるように十分に心を落ち着け、静かに待たなければなりません。

姉妹の皆さん、神の王国を築き、主の来臨に備えるために、わたしたちは重要な役割を担っています。実際、主の娘たちの助けなしには、主の業を成し遂げることはできないのです。そのため、主はわたしたちにさらに多くのささげ物を期待しておられます。扶助協会の目的を達成することを、かつてなかったほど期待しておられるのです。

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック

聖文から——

申命 6：5 - 7；ルカ 10：30 - 37；
ヤコブの手紙 1：27；2 ニーファイ 25：26；
モーサヤ 3：12 - 13

28 ページには、信仰と個人の義の模範であった女性についての話が紹介されています。

何ができる でしょうか？

1. 担当の姉妹たちが信仰と個人の義を増し加え、家族と家庭を強めるのを助けるために、これまでにどのような靈感を受けてきましたか。どのような助けを与えることができますでしょうか。

2. 自分の信仰を強め、個人の義を増し加えることにいっそう力を注ぐために、このメッセージをどのように利用しますか。

詳しくは
www.reliefsocietylds.org [英語]をご覧ください。

注

1. ジョセフ・スミス、*History of the Church*, 第5巻, 25
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』185
3. M・ラッセル・バラード「義にかかった女性たち」『リアホナ』2002年12月号, 39

わたしたちの歴史から

1842年6月9日に開かれた扶助協会の集会で、預言者ジョセフ・スミスは姉妹たちに、扶助協会は「貧しい人を助けるだけでなく、人を救う」ためにあると教えました。¹ 物質的な目的に加えて霊的な目的についても述べたこの言葉は、扶助協会の歴史を通じてこの組織を特徴づけるものとなってきました。1906年、ジョセフ・F・スミス大管長（1838 - 1918年）は次のように教えました。「〔扶助協会は〕貧しい者、病人、困っている者の必要を満たすだけではありません。シオンの母親と娘たちの霊的な成長を図ることもその務めの一部であり、それはむしろ、より大きな位置を占めています。さらに〔扶助協会は〕、この世で人々を脅かしている不幸、災難、闇の力、邪悪からすべての姉妹たちが一人残らず守られるように気をつけます。」2001年、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老もそのことを再度強調しています。「主と聖約を交わした教会のすべての姉妹は、人々の救いの手助けをなし、世の女性を導き、シオンの家庭を強め、神の王国を築くようにとの神聖な命令を神から受けています。」³



小さな、簡単なこと

「小さなことから大いなることが生じるのである。」
(教義と聖約 64 : 33)

世界における教会歴史



マーシャル諸島

教 会員がマーシャル諸島を訪れたことは第二次世界大戦中にありましたが、正式な伝道活動は1977年2月まで開始されませんでした。ハワイ・ホノルル伝道部のウィリアム・ワーデル長老とスティーブン・クーパー長老がその地域で働くよう割り当てを受けました。仕事のためにマーシャル諸島に引っ越していた教会員、エルドレッド・ヒュークス兄弟の助けを得て、彼らはほかの教会の建物で教会の礼拝行事を開けるようになりました。

最初の年、宣教師たちは27人の改宗者にバプテスマを施しました。3年後、マーシャル諸島はグアム・マイクロネシア伝道部に組み

込まれました。1984年、マーシャル諸島マジュロ地方部が組織されました。教会員数は増加を続け、1991年に2番目の地方部がクワジュリン環礁に組織されました。2006年にマーシャル諸島マジュロ伝道部が創設されました。その後の3年間は、活発化の取り組み、改宗者のバプテスマ、地元の指導者の訓練のおかげで、熱心な会員の数が大幅に増えました。その結果、2009年6月14日に、マーシャル諸島マジュロステークが組織されました。

マーシャル諸島の会員たちの信仰と改宗の物語は、32ページに掲載されています。

大会から学ぶ

子 供たちはもう成長してそれぞれ自分の家族を持っています。それでもわたしたちは、預言者の言葉を一緒に学ぶ良い方法を見つけました。総大会の次の月に、わたしは www.conference.lds.org で大会の説教を学び、指示や導き、慰めを与えてくれる言葉を選びます。次の6か月の間に毎日一つずつ読めるよう、十分な数の言葉を集めます。(例えば、5月1日から10月31日までの間に毎日一つずつ読めるよう、4月中に総大会の言葉を探します。)それから、その言葉を子供たち一人一人に渡します。

子供たちはそれぞれ大会説教を研究していますが、この「今日の言葉」は大会説教の研究を補足するものとして、よく家族の会話の話題になります。総大会後、毎月預言者たちの勧告を思い出すことは、互いに速く離れて暮らすときでさえ、すばらしい経験になっています。

クリスティーン・ティベッツ
(アメリカ合衆国、ユタ州)

マーシャル諸島における教会

会員数	4,486
伝道部数	1
ステーク数	1
地方部数	1
ワード/支部数	11

J・ルーベン・クラーク・ジュニア—— 並外れた^{たまもの}賜物を持つ人



法律の学位と卓越した知性を携えて、J・ルーベン・クラーク・ジュニア兄弟は法律と政府機関の世界で顕著な経歴を築き上げ、ついに1930年に合衆国の駐メキシコ大使に任命されました。しかしその経歴は、1933年4月6日、ヒーパー・J・グラント大管長の第二顧問に支持されたときに終了しました。そのとき彼は大祭司でしたが、中央幹部ではありませんでした。彼が使徒に聖任されたのは、その後1934年10月にグラント大管長の第一顧問に支持されたときでした。クラーク管長は引き続き、ジョージ・アルバート・ス

クラーク管長(左)、
伝道部会長のラモント・トロントとともに。



ジョシヤ・ルーベン・クラーク・ジュニアは、1871年9月1日にユタ州グランツビルに誕生しました。彼は正式な教育を受ける機会がほとんどなく、高校にも行けませんでした。母親から教育を受け、学ぶことを愛しました。クラーク兄弟は理学士号を取得してユタ大学を首席で卒業しました。それからさらに勉学を続け、ニューヨーク市のコロンビア大学法学部で法律の学位を取得しました。

クラーク兄弟は1898年、ソルトレーク神殿でローシーン・アネッタ・サベージと結婚し、やがて二人は4人の子供の親となりました。



1945年の大管長会(左から)——
J・ルーベン・クラーク・ジュニア、
ヒーパー・J・グラント、デビッド・O・マッケイ

ミス大管長とデビッド・O・マッケイ大管長の顧問として奉仕しました。

クラーク管長が教会に貢献した事柄は多くありますが、中でも際立っているのは、デビッド・O・マッケイ長老が大管長に召されたときに示した謙遜さの模範です。マッケイ大管長はクラーク管長を第二顧問に召しました。クラーク管長は以前の大管長会で第一顧問として奉仕していたので、彼が軽んじられたと考える人々もいましたが、クラーク管長は次のように説明しました。「主に仕えるときに大切なのは、どこで仕えるかではなく、どのように仕えるかです。末日聖徒イエス・キリスト教会の中では、人は正式に召された役割を引き受けます。その役割を求めることも、断ることもしません。」¹

クラーク管長は1961年10月6日に亡くなりました。

注

1. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, Conference Report, 1951年4月, 154

LDS職業支援サービスの ワークショップ

LDS職業支援サービスは、仕事を探している人、学校に行きたい人、自営業を始めたい人を助けるためのワークショップを提供しています。このワークショップは、人々が職業上の目標を定め、

自分には成功する能力があるという自信を深められるように助けています。ワークショップは、学び、情報を交換し、意欲を起し、楽しめるように計画されています。ワークショップで学んだことを応用する人は、そうしなかった場合よりも短期間で仕事を見つけることができている。

ワークショップで学ぶ内容には、職業上の目標を設定する、目標を達成する助けを見つける、履歴書を書く、新しい仕事

で成功する、などがあります。

近隣のワークショップ会場を確認するには、ビショップや支部会長に尋ねるか、www.ldsjobs.org にアクセスして、「Find a Center」をクリックしてください(訳注——日本語の場合は、www.ldschurch.jp にアクセスして、「教会の概要」→「福祉・緊急時の備え・人道支援」→「職業支援センター」をクリックしてください)。

「あなたの若い日に、
あなたの造り主を覚えよ。」
(伝道 12:1)

聖典は預言者たちと使徒たちの務めを記録した年代記です。聖典に出てくる指導者の多くは、若いときから神を知っていました。そのような指導者の若いころを記した記録を5つ紹介しましょう。



- バプテスマのヨハネは、「主の来臨」に人々を備えるよう召されました。彼は「生後八日で神の天使によってこの力……に聖任され」ました(教義と聖約 84:27-28)。



- ヨシヤ王は、8歳で王位に就きました。彼は31年間王位に就き、ユダヤ人が福音に改宗するよう助けました(列王下 22章参照)。

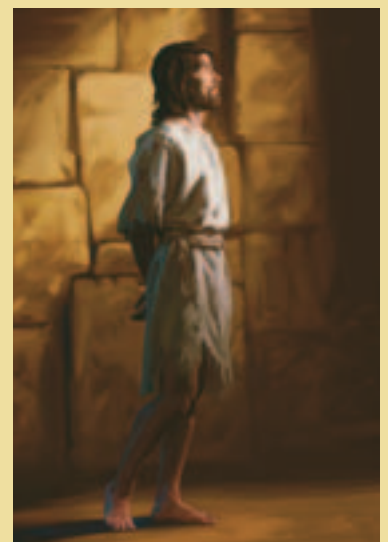
- モルモンは約10歳で、記録者アマロンの後継者として記録(ニーファイの版)を残す者として選ばれました。16歳のとき、モルモンはニーファイ人の軍を導きました(モルモン 1:2-4; 2:1-2 参照)。



- ダビデはまだ非常に若いときにゴリアテを倒しました。恐らく、ヒラマンの軍隊の兵士たちの年齢も同じくらいだったでしょう(サムエル上 17:49-56; アルマ 53:22 参照)。



- ヨセフは17歳でエジプトに売られました。その地で「主がヨセフと共におられ」ました(創世 37:2, 27-28; 39:2)。



「このすべてがわたしを祝福しています。」

教会機関誌

マイケル・R・モリス

土曜日になると、エルビラ・グアグリアレロ姉妹は家の台所でせっせと働きます。姉妹はアルゼンチン南部チュブ州のヌエボ湾に臨む町プエルトマドリニに住んでいます。

小麦粉と水の量を量り、そのほかの材料をそろえます。作業中はほとんどしゃべらず、口よりも手の方が忙しく動きます。何と言っても、主の用向きを受けているのです。

「自分が何か善いことをしていると分かっているので、気持ちがいいです」と材料を混ぜながらグアグリアレロ姉妹は言います。手を動かしながら、救い主のことを考えます。自分の奉仕の成果により、ほかの教会員が主を思い起こすのに役立つと考えると、うれしくなります。

82歳のグアグリアレロ姉妹は訪問教師として奉仕を楽しみ、ワードの音楽を指導するのを手伝っています。また聖餐式で用いるパンを作っており、もう10年近くもこの召しを尊んで大いなるものとしています。週の初めに自分のためにパンを作りますが、土

曜日は「特に教会のために」パンを作る日にしています。姉妹はこう言います。「『パンを作って、教会へ行かなくては』と自分に言い聞かせるんですよ。自分の務めを果たしたいですからね。」

体の調子さえ良ければ、神殿に参入します。年に1度、北方にあるアルゼンチン・ブエノスアイレス神殿まで、20時間バスに乗って行きます。

「グアグリアレロ姉妹はいつも喜んで自分にできるあらゆる方法で奉仕しています」とビショップのヘス・サントス・グミエル兄弟は言います。「ワードの会員たちにとって頼りになる存在です。高齢にもかかわらず、毎週土曜日に必ずパンを作り、毎週日曜日に教会へ来ています。良い模範です。」

グアグリアレロ姉妹は1962年にブエノスアイレスの南にあるマル・デルプラタで専任宣教師に会いました。宣教師が住んでいた下宿屋で働いていたときのことです。それから15年後、プエルトマドリニへ引っ越してか



エルビラ・グアグリアレロ姉妹

ら、宣教師が戸別訪問しているのに気づき、福音を学ぶようになりました。そしてバプテスマを受け、教会で奉仕の生活を始めたのです。

現在は独りで住んでいますが、寂しくはありません。聖典があり、ワードという家族がいるからです。また、祈りを通して天の御父としばしば心を通わせています。さらに、御霊を伴侶とする喜びを感じています。それは、人に奉仕することで主に仕える人々に、主が約束しておられる祝福です。¹

「わたしにとってこれはすべて祝福となっています」とほほえみながら、グアグリアレロ姉妹は言います。「教会は働く機会をくれます。だから幸せです。天の御父に仕えることにいつも喜びを感じてきました。」■

注

1. ヘンリー・B・アイリング「主の力を受けて」『リアホナ』2004年5月号、16-19参照。ヨハネ14:16-18；教義と聖約88:3も参照



熟年期を最大限に生かす

自分が人のために役立つと感じたり、寂しさを乗り越えたりするための鍵は、困っている人を助け

る方法を見つけることです。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899-1994年）は、次の方法で奉仕することを教会の高齢者に提案しました。

1. 神殿で働き、神殿に度々参入する。
2. 情報を集め、家族の歴史を作成する。
3. 伝道活動に参加する。
4. 家族のきずなを強める。
5. 教会の召しを引き受けて果たす。
6. キリストのような奉仕に従事する。
7. 健康を保ち、はつらつと生きる。

エズラ・タフト・ベンソン「教会の高齢の方々へ」『聖徒の道』1990年1月号、4-5より

イエス・キリストは わたしたちの罪を^{あがな}贖われた

わたしたちがこの地上にいる理由の一つは、神の戒めに従えるようになることです。完全な生涯を送られたイエス・キリストを除き、地上に生を受けた人は皆、罪を犯しています（ローマ 3：23；1ヨハネ 1：8 参照）。罪は神の戒めを意図的に破ることであり、すべての罪に罰が伴います。罪を犯すと、正義は罰を受けるよう要求します（アルマ 42：16 - 22 参照）。

最終的には、いかなる罪も人を神から引き離す結果となります（1ニーファイ 10：21 参照）。この分離は非常に厳しく、人が自分で修復することはできません。

「神の独り子であり、この地上で生きてただ一人の罪のない御方であるイエス・キリストは、人類のために贖いを行うことができになるただ一人の御方であった。」（Bible Dictionary, "Atonement"）

この分離を克服するために、天の御父は道を備えてくださいました。御父の独り子イエス・キリストにわたしたちの罪の重荷を背負わせ、わたしたちの霊が清められ、再び御父のもとへ戻れるようにしてくださいました。これは^{あがな}憐れみの計画です。

救い主はこのように教えておられます。「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを

を受けることのないようにした。しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。」（教義と聖約 19：16 - 17）

主の贖いの一部として、イエスはゲツセマネの園とカルバリの十字架上でわたしたちの罪のために苦しみました。わたしたちは罪を悔い改めることにより、主の贖いの力を生活の中に招くことができます。

進んでわたしたちの罪を贖ってくだ



贖いは次のような祝福ももたらします。

1. 地上に生まれるすべての人が復活します(アルマ 11:42-45 参照)。



2. 責任を負える年齢、すなわち8歳になる前に死ぬ子供は皆、神のもとで永遠の命を得ます(モーサヤ3:16; 15:24-25; モロナイ8:8-12 参照)。



さったイエス・キリストはこう述べておられます。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28-30) ■

詳しくは、『福音の原則』59-66、『真理を守る』151-153を参照してください。



3. 試練のときに平安を見いだす力を与えられます。わたしたちの苦痛や病をイエスが引き受けてくださったからです(ヨハネ 14:27; アルマ7:11-12 参照)。



4. この世の生活で経験する不公平が正されます(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』2004年、52 参照)。

「見よ、わたしは、世に贖いをもたらし、世の人々を罪から救うために世に来た。

それゆえ、悔い改めて^{おきなこ}幼子のようにわたしのもとに来る者を、わたしはだれでも受け入れよう。神の王国はこのような者の国である。見よ、このような者のために、わたしは自分の命を捨て、再びそれを得た。それゆえ、地の果てに至る人々よ、悔い改め、わたしのもとに来て救われなさい。」(3 ニーフアイ 9:21-22)

悔い改め、 主に立ち返り、癒される



悔い改めの祝福

「罪とは、神の律法に故意に背くことです。イエス・キリストの贖いは、罪の結果を正し、克服するよう、神がその子供たちに与えられた賜物です。……

イエス・キリストの贖いの賜物は、どんなときにも、どんな所でも、悔い改めと赦しの祝福を授けてくれます。」

大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長
「帰還可能点」
『リアホナ』2007年5月号, 99 - 101

「見よ、自分の罪を悔い改めた者は救われ、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」(教義と聖約 58:42)

教科課程部
デビッド・L・フリッシュニクト

先日、知り合いの女性が自動車事故で重傷を負いました。肋骨と脊椎を折るほどひどいけがです。リハビリの一環として、背中と首が動かないように固定する装具を着けなくてはなりません。装具を着けるのは非常に窮屈なように思いましたが、必要なものでした。背中と首が治るのに必要な条件を整えてくれるものでした。

悔い改めはその装具のようなものです。罪を犯すと、自分の心を傷つけてしまい、再び元のようにするには神の癒しが必要です。悔い改めは、救い主が贖いの力を通してわたしたちを癒してくださる条件を整えます(3ニーファイ9:13参照)。折れた背骨に当てる装具のように、悔い改めの過程の一部が心地よいものではないとしても、とにかく悔い改める必要があります。

大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長は次のように教えています。「真の悔い改めは正しい行いへ引き戻してくれます。真の悔い改めをするには、罪を認め、深く後悔し、神の御心に添った悲しみを感じ、神に罪を告白しなければなりません。罪が重大な場合、権限を受けた神権指導者にも告白します。

そして、神に赦しを求め、自分の行動が招いたすべての損害を償うために、できる限りのことをする必要があります。悔い改めは思いと心の変化を意味します。すなわち、悔い改めるとわたしたちは、間違った行いをやめ、正しい行いを始めます。神と自分自身、生活全体に対する態度を改めるのです。」¹

悔い改めの過程を完了すると、その結果として癒され、安心し、幸せになります。ドロシー・J・R・ホワイトはこう書いています。

涙は外に流れるけれど、
心の中をきれいに洗い流してくれる。²

主はわたしたちが悔い改めるよう、愛をもって強く勧めておられます。なぜなら、主はわたしたちを癒したいと思っておられるからです。主は、悔い改めを条件としてわたしたちの罪の代価を払うために、体と霊に苦しみを受けられたのです。主はこう説明しておられます。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼ら



ほうとう ほんそん
放蕩息子は謙遜になって父親のもとに帰り、こう言いました。「父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかって、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません。」(ルカ 15:21) 父親は息子を家に迎え入れました。そのように天の御父も、わたしたちが悔い改めるなら迎え入れてくださいます。

はわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。

しかしながら、父に栄光があるように。

わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。

それゆえ、わたしは再びあなたに命じる。悔い改めなさい。」(教義と聖約 19:16-20)

わたしたちが今すぐ悔い改め、主に立ち返り、癒されますように。■

注
1. ディーター・F・ウークトドルフ「帰還可能点」『リアホナ』2007年5月号, 100
2. ドロシー・J・R・ホワイト, "Repentance," *Ensign*, 1996年7月号, 27

悔い改めと赦しの祝福にはどのようなものがありますか。

- わたしたちが赦されたことを聖霊が確認してください。
- 自責の念という重荷を神が取り去ってくださいます。
- いっそう豊かに聖霊の導きを受けることができます。

このテーマについて詳しくは、エゼキエル 33:15-16; アルマ 12:33-34; 36:13, 17-20; およびボイド・K・パッカー「輝かしい赦しの朝」『聖徒の道』1996年1月号, 20-22を参照してください。

なぜ悔い改めはわたしたちを癒してくれるのでしょうか

十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は、「わたしがあなたがたを癒すことができるように、……悔い改めなさい」という大会説教の中でこの問いに答えています(『リアホナ』2009年11月号, 40-43)。預言者アルマも悔い改めと贖いについての理解を助けてくれます(アルマ 42章参照)。

1. 悔い改めることにより、キリストの贖いの効力を受け、癒されることができます。キリストがゲツセマネとゴルゴタでお受けになった苦痛により、わたしたち皆の罪が贖われたのです。主はわたしたちの罪を赦すことができになり、赦したいと強く望んでおられます。
2. わたしたちは罪を犯すとき、神に背きます。これはわたしたちの霊を傷つけます。
3. わたしたちは悔い改めるとき、神に「立ち返る」のです。こうして自責の念が鎮まります。また赦しは「我らの心から罪を取り除いて」くれます(アルマ 24:10)。そして「良心の安らぎ」をもたらす(モーサヤ 4:3)、わたしたちを癒してくれます。

悔い改めた結果として受けた祝福についての証をだれかに伝えることを考えてみてください。

ゲツセマネの 清めのか



十二使徒定員会
ブルース・R・
マッコンキー長老
(1915 - 1985年)

ブルース・R・マッコンキーは1915年7月29日、アメリカ合衆国ミシガン州で生まれました。1946年10月6日、七十人第一定員会会員として支持され、1972年10月12日には十二使徒として聖任されています。1985年4月19日、ユタ州ソルトレーク・シティーにおいて死去しました。この説教は、1985年4月6日の総大会で行われたものです。

これはわたしが心に感じることであり、また御霊も呼応していると思われることですが、わたしが宣言できる最も大切な教義、そしてわたしの述べることのできる最も力強い証は、主イエス・キリストの贖いの犠牲についてでしょう。

主の贖いは、世の初めから果てしない永遠の将来に至るまで、過去、未来、どの時代を考えても、最も偉大な出来事です。

贖いは神のみが行い得る、慈善と恵みに満ちた至高の行為です。この贖いを通して初めて、御父の永遠の救いの計画のすべての条件がその効力を発揮するのです。

贖いを通して、人に不死不滅と永遠の命がもたらされます。また、全人類が死と地獄、悪魔、永遠の責め苦から救われるのです。

またこの贖いを通して、神の栄光の福音を

信じてそれに従うすべての人、真実かつ誠実であって世に勝つすべての人、キリストとキリストの御言葉のために苦しむすべての人、主の大義のために試され、打ち打たれるすべての人——これらの人は皆造り主のようになり、その王座で主のみそばに座し、主とともに不滅の栄光のうちに統治するのです。

こうした驚嘆すべき事柄について語るとき、わたしはわたし自身の言葉を使います。皆さんは、それが聖文の言葉であると思われるかもしれませんが、ほかの使徒や預言者の言葉と思われるかもしれません。

確かにそれらの言葉は、初めはほかの人によって語られたものです。しかし、今はわたしの言葉です。神の聖き御霊がわたしに、その言葉が真実であることを証したからです。そしてわたしには今、主が初めて明らかにしてくださったように思えるのです。この意味において、わたしは主の声を聞き、主の言葉を知っています。

ゲツセマネの園で

今から2,000年前、エルサレムの城壁の外にゲツセマネと呼ばれる心地よい園がありました。イエスと親しい友人たちはよくその園に入り、瞑想と祈りの時を過ごしていました。

そこでイエスは、弟子たちに王国の教義を教え、全員が神との霊的な交わりを得ていました。その方こそわたしたちすべての父であり、弟子たちはその方の御業のために働き、その方から使命を託されていたのです。

この聖なる場所は、アダムが住んでいたエデンや、エホバが律法をお与えになったシナイや、神の御子が大勢のためにその命を犠牲としてさげられたカルバリと同じく、永遠の御父の罪なき御子が悔い改めを条件に、すべての人間の罪をその身に負われた所です。

キリストがゲツセマネで行われたことの真の重要性はわたしたちには分かりません。死



いろいろな要素から判断すると、この果てしない苦痛、比類なき苦しみは、3、4時間続いたであろうと思われます。

逮捕、裁判、むち打ち

この後、痛めつけられ体力を消耗し尽くしたイエスは、ユダヤほかの悪魔の化身たちと対峙されます。その中にはサンヒドリンの議員もいました。そして主は通常の犯罪人と同じように首に縄をかけられ、大犯罪人たちによって裁かれるのです。それはアロンの席に座すユダヤ人であり、カイザルの権力を行使するローマ人です。

彼らは主をアンナス、カヤパ、ピラト、ヘロデのもとへと引き回し、また、ピラトのところに戻します。そして主は罪ありとされ、のろわれ、むち打たれるのです。そして苦痛にさいなまれた肉体は悪らつな殴打でさらに痛めつけられ、汚れたつばがその御顔に流れます。彼らは怒りを込めて葦の棒で主の背中を何度も打ちました。そして、いばらの冠によって裂かれた額からは血が滴り落ちたのです。

しかしそれにも増して、イエスは40回に1回足りないだけのむちを受け、また何本もの皮ひもに先のとがった骨や鋭利な金属を付けたむちで打たれました。

多くの人々はこのむち打ちだけで死んでしまいます。しかし主はこの苦痛から立ち上がり、カルバリにおける残虐かつ屈辱的な十字架上の死へと向かわれます。

すべき人間には決して計り知ることのできないものです。

わたしたちが知っているのは、御父が授けたもう苦き杯を飲み干すときに、主があらゆる毛穴から血の汗を流されたことです。

わたしたちが知っているのは、主が肉と霊双方の苦しみに遭われたことです。それは死を味わわずには人が耐えることのできないものでした。

わたしたちが知っているのは、人には理解できないある方法で主の苦しみが正義の要求を満足させ、悔い改めた人々を罪の苦痛と罰から解き放ち、主の聖なる御

名を信じる人々に憐れみが授けられるようにして下さったということです。

わたしたちが知っているのは、主が地に伏してその肩にかかる果てしのない重荷の痛みと苦しみを受けられたことです。主は身を震わせ、苦き杯をできることなら飲みたいと思われたほどでした。

わたしたちが知っているのは、天の栄光の庭から御使いが、試練のさなかにある主のもとを訪れて主を力づけたことです。わたしたちはその御使いが、人類が生じるようにいちばん先に墮落した雄々しきミカエルであろうと考えています。

キリストが
ゲツセマネで
行われたことの
真の重要性は……
死すべき人間には
決して
計り知ることの
できないものです。

主は十字架を背負わされますが、重みと痛みと度重なる苦しみにくずおれてしまうのです。

十字架の上で

そしてついにイエスは、エルサレムの城壁の外にあるカルバリの丘の上で、弟子たちがなすすべもなく死ぬほどの苦しみを味わいながら見守るなか、ローマの兵士たちによって十字架につけられるのです。

兵士たちは大きなつちで鉄の釘^{くぎ}を足と手と手首に打ち込みます。まさしく、わたしたちの罪のために傷つき、わたしたちの悪のために肉を裂かれたのです。

そして、十字架が立てられ、主は人々の好奇の目にさらされ、ののしりとあざけりを受けられました。この悪意に満ちた行為は、午前9時から正午までの3時間行われました。

それから天が暗くなり、暗黒が3時間地を覆います。ニーファイ人の間にも同じことが起こりました。そして、自然をつかさどる神が苦しんでおられるかのように、嵐^{あらし}が吹き荒れました。

こうして3時間、すなわち12時から3時までの間十字架におかかりになったままの主は、ゲツセマネの果てしない苦しみと容赦のない痛みがよみがえってくるのです。

そしてついに贖いの苦痛が代価として支払われ、勝利を収める時がやって来ます。すべてにわたって神の御子が御父^{みこと}の御心を全うしたとき、こう言われました。「すべてが終わった。」(ヨハネ 19:30) そして自らその命を捨てられたのです。

霊界で

主は、この恵みの死がもたらす平安と安らぎによって肉体の痛みや悲しみから解放され、神のパラダイスにお入りになりました。

こうして御自身の霊を罪のためにおさげになった主は、メシヤについて預言されたとおり、その子孫を御覧になるように備えられたのです。

これら古き時代からのすべての聖なる預言者や忠実な聖徒たち、主の御名をその身に受け、霊的に主によって生まれた人々は、主の息子、娘となるのです。それはわたしたちも同じです。そしてわたしたちも彼らも霊界にともに集い、主の御顔を拝し、その御声を聞くのです。

38ないし40時間後、ユダヤ人の時間では3日の後、わたしたちの愛する主はアリマタヤの墓に運ばれ、半ば香油を塗られた体がニコデモとアリマタヤのヨセフにより安置されます。

復活

そして、わたしたちには理解できない方法で、主はまだ腐敗していなかったと思われる肉体を取り、不死不滅の栄光を得てよみがえり、復活された御父と同じ姿になられたのです。

その後、主は天と地のすべての権能を得、永遠の昇栄^{みすがた}を得て、マグダラのマリヤをはじめ大勢の人々に御姿を現されます。それから天に昇られ、全能の御父の右に座して永遠の栄光のうちに統治されます。

3日目に主がよみがえられたことにより、贖罪^{しよぐさい}は見事に完成します。そしてまたわたしたちには理解できない何らかの方法で、主の復活の効果が全人類に及び、あらゆる者が墓から出られるようになります。

アダムが死をもたらしたように、キリストは命をもたらし、アダムが死すべき状態の父であるように、キリストは不死不滅の父であられるのです。

そして死すべき状態と不死不滅の双方がなければ、人は救いを得ることはできず、神と天使が永遠の栄光のうちに永久に生きる空の高みにまで昇ることもできないのです。

贖罪の知識

さて、キリストの贖罪は福音の教義の中で最も基本的なものです。しかし、あらゆる啓示された真理の中でこれほど理解されていないものはありません。

わたしたちの多くは単に表面的な知識しか持たず、人生の試練や危機に遭うと、憐れみをもって見守ってくださるようにと主に頼ります。

しかし、エノクやエリヤと同じような信仰を持つには、彼らが信じたことを信じ、彼らが知っていたことを知り、彼らが生きたように生きなければなりません。

皆さんもどうか、贖いについて正しく確かな知識を得てください。

わたしたちは人間の哲学や賢者の知恵を捨て、あらゆる真理の導き手として与えられた御霊に耳を傾けなければなりません。



主の復活の効果が
全人類に及び、
あらゆる者が
墓から出られる
ようになります。

また聖文を研究し、それを主の御旨、御心、御声として、また救いに至らせる神の力として受け入れる必要があります。

聖文を読み、深く考え、祈ると、わたしたちの心の中に神の3つの園が見えてきます。エデンの園、ゲツセマネの園、そしてイエスがマグダラのマリヤに御姿を現わされた、空になった墓のある園です。

創造、背き、贖罪

エデンでわたしたちは万物がパラダイスの状態に創造されたことを目の当たりにします。死も生殖も試しの経験ありません。

そしてこの創造が、まだ人には知られていませんが、背きをもたらすための唯一の方法であったことが分かるようになります。

それが分かって初めて、わたし

たちは最初の男女であったアダムとエバが、この地上における最初の死すべき人間になるために、不死不滅とパラダイスの栄光から降りたことを理解します。

生殖と死を伴う死すべき肉体がこの世にもたらされたのです。そしてアダムの背きにより試練と試しの状態が始まります。

その後ゲツセマネで、神の子が人を、背きによってもたらされた霊と肉体の死からお救いになるのをわたしたちは見ます。

そして最後に、空になった墓の前で、主なるキリストが死の縄目を断ち切り、墓に対して永遠の勝利を収められることをわたしたちは知るので。

このように、創造は背きの源であり、背きによって死すべき肉体と死がもたらされ、そしてキリストによって不死不滅と永遠の命が

もたらされたのです。

もしも死の元となったアダムの背きがなかったならば、命をもたらすこととなるキリストの贖罪もなかったでしょう。

贖いの血

ではここで、神の血を流すことによってなされた完全な贖罪に関して、わたしはそれがゲツセマネとゴルゴタで行われたことを証します。またイエス・キリストに関して、イエスが生ける神の御子であり、この世の罪のために十字架におかかりになった御方であることを証します。イエスはわたしたちの主であり、神であり、王であります。わたしはこのことを、ほかのだれにも頼らず、自分自身の知識として知っています。

わたしは主の証人の一人であり、いつの日か主の手と足の釘跡に触れ、主の足を涙でぬらすことでしょう。

しかし主が神の全能の御子であられ、わたしたちの救い主、贖い主であられ、また救いが主の贖いの血以外の何ものからももたらされないとの知識は、今と何ら変わることはないでしょう。

父なる神が光の中におられるように、わたしたちすべてが光の中を歩むことができますように。そして約束どおり、御子イエス・キリストの血がわたしたちをあらゆる罪から清めてくださいますように。■

見出し付加。原文〔英語〕においては、つづり、大文字、句読点を標準的なものに変更しています。

「疑い深いトマス」の一部、カール・ヘンリック・フロック画



十二使徒定員会
D・トッド・
クリストファーソン長老



いつも 御子 を覚えるために

いつも救い主を覚えるとき、
わたしたちは主の力とわたしたちへの愛によって見守られていると確信して
「わたしたちの力のかぎりすべてのことを喜んで行」うことができます。

せいさん
聖餐の祈りから、
主イエス・キリ
ストによって定
められた聖餐の主要な目
的の一つは「いつも御子を
覚え」ることであることが
確かに分かります（教義と
聖約 20:77, 79）。救い
主を覚えることには、主の

贖罪しよくざいを覚えることが含まれるのは明らかです。
主の贖罪は、主の苦しみと死の象徴であるパン
と水で表されています。わたしたちは、主がわた
したちのためにしてくださったことを決して忘れ
てはなりません。主の贖罪や復活がなければ、
人生は無意味になってしまうからです。しかし



主の贖罪と復活のおかげで、
わたしたちの人生には永遠
の神聖な可能性があります。

「いつも御子を覚える」と
いう言葉が意味する3つの
側面について詳しく述べた
と思います。第1に、主の
御心みこころを知り、それに従うこと
です。第2にあらゆる思い、

言葉、行いをキリストの御心と一致させる義務
があることを認識し受け入れることです。そし
て第3に、必要な助けを求めていつも主に頼る
ことができるという信仰を持ち、恐れを抱か
ずに生活することです。

皆さんやわたしも
キリストを
生活の中心に置き、
主が天の御父と
一つであられるように
わたしたちも
主と一つになることが
できます。
まず、生活の中の
あらゆるものを
いったん取り除き、
それから
救い主を中心とした
優先順位に基づいて
再び戻せばよいのです。



1. キリストが御父の御心を求めたように、キリストの御心を知り、それに従うことを求める

聖餐のパンの祝福では、進んで御子の御名を受け、「いつも御子を覚え、御子が〔わたしたちに〕与えてくださった戒めを守ること」が求められています（教義と聖約 20：77）。この戒めを「主の戒めを守るためにいつも御子を覚える」と解釈してもよいでしょう。イエスはこのようにしていつも御父を覚えておられました。主は言われました。「わたしは、自分からは何事もすることができない。ただ聞くままにさばくのである。そして、わたしのこのさばきは正しい。それは、わたし自身の

考えですのではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである。」（ヨハネ 5：30）

イエスは、肉においても霊においても御自分を御父の御心に従わせることによって、御父と完全に一致しておられました。御父についてイエスはこのように語っておられます。「わたしは、いつも神のみことろにかなうことをしている……。」（ヨハネ 8：29）イエスは死に至るまでも従順であられました。それが御父の御心だったからです。「御子の御心は御父の御心にもみ込まれ」たのです（モーサヤ 15：7）。イエスが天の御父だけに心に向

けておられたことこそ、イエスの教導の業がそれほど明快で力強いものだったおもしろい理由の一つです。

同じように、皆さんやわたしもキリストを生活の中心に置き、主が天の御父と一つであられるようにわたしたちも主と一つになることができます（ヨハネ 17：20 - 23 参照）。それにはまず、生活の中のあらゆるものをいったん取り除き、それから救い主を中心とした優先順位に基づいて再び戻せばよいのです。常に御子を思い起こさせる事柄を優先します。それには次のようなものが含まれるでしょう。頻繁な祈りや聖文学習、預言者の教えを深く考えながら学ぶこと、毎週ふさわしい状態で聖餐を受けられるように準備すること、日曜日の礼拝、主の弟子となることについて御霊や経験によって学んだことを記録し覚えることなどです。

そのほかに、あなたの人生のこの時期に特にふさわしい事柄が思い浮かぶかもしれません。わたしたちの生活の中心にキリストを置くために十分な時間を取り、適切な方法を決めたくて、教育や家族の責任などといった、そのほかの責任や価値あることを加え始めることができます。このようにすれば、単なる良いことのために最も大切なことがないがしろになることはありません。それほど価値のない事柄は後回しになるか、生活から消えていくでしょう。

イエスが御自分の思いを御父の御心に合わせられたように、わたしたちも自分の思いをイエス・キリストの御心に添わせることは、簡単に達成できることではないとわたしは知っています。ブリガム・ヤング大管長（1801 - 1877 年）は、わたしたちの問題についてよく理解を示したうえで、次のように語りました。

「あらゆることが語られ、起きたというのに、また、主がこの民をこれほど長期間にわたって導かれたというのに、神への信頼が欠けているように感じることはありませんか。皆さん自身はそう認識していませんか。あなたはこう尋ねるかもしれません。『ブリガム〔兄弟〕、あなたはそう感じるのですか。』 そうです。自分が頼りとしている主への信頼が、何か足りないと分かるのです。なぜでしょうか。それはわたしの身に墮落がもたらされた結果、わたしの力が及ばないからです。……

時々、わたしの心の中で、自分の意志と天の御父の御心の間に境界線ができることがあります。そのためにわたしの意志と天の御父の御心が、完全に一つとなっているとは言えなくなるのです。

わたしたちが仕える神の関心事はわたしたちの関心事であるということ、そして、わたしたちにとって、この世でも永

遠にわたっても、そのほかに関心を寄せるべきものは何もないということを実感し、理解するべきです。可能な範囲、肉の弱さが許す範囲、自分で理解できる知識と信仰を得られる範囲でそうすべきなのです。』¹

簡単ではありませんが、わたしたちは主に信仰を抱きながら、力強く進むことができます。いつも救い主を覚えていたという望みや、救い主に従う能力は、時を重ねるにつれて大きくなることをわたしは証明できます。その目標に向かって忍耐強く努力し、識別の賜物を求めて、また自分が必要とする神の助けを求めて常に祈らなければなりません。ニーファイは次のように勧告しています。「わたしはあなたがたに言うておく。あなたがたは気を落とさずに常に祈らなければならない。そして、主があなたがたの行うことを神聖にしてください、あなたがたの行うことが自分自身に幸いをもたらすものとなるように、キリストの名によってまず御父に祈らずには、主のためにどんなことも行ってはならない。」（2 ニーファイ 32：9）

わたしは、このような祈りの純粋な模範を目にしたことがあります。それは、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老とともに、テレビ会議システムを使い、外国にいるある夫婦と面接を行う責任を受けたときのことでした。会議システムの部屋に入る少し前、わたしはその夫婦に関する情報にもう一度目を通し、面接の準備は整ったと感じました。約束の時間の数分前、独り座って頭を垂れているオークス長老の姿を見かけました。長老はすぐに頭を上げて言いました。「面接の準備のために祈っていたところです。識別の賜物が必要ですから。」長老は最も大切な準備を怠りませんでした。それは、これから行う面接を、わたしたちの幸いと主の栄光のために神聖なものにさせていただくための祈りでした。

2. あらゆる思い、言葉、行いをキリストの御心に一致させる備えをする

聖文では、大いなる裁きの日が来ることが明らかにされています。その日、主は立って国々を裁かれ（3 ニーファイ 27：16 参照）、すべてのひざがかがみ、すべての舌が主がキリストであられることを告白します（ローマ 14：11；モーサヤ 27：31；教義と聖約 76：110 参照）。一人一人がどのような事柄について、またどの範囲まで裁かれるかについて、アルマはモルモン書の中で次のように説明しています。

「わたしたちの言葉がわたしたちを罪に定め、まことに、行いもすべてわたしたちを罪に定めるので、わたしたちは染

わたしたちが人生で
「罰を逃れ」、
ほかの人からは
うまく隠しおおせた
としても、
避けて通れない日が
訪れ、
純粹で完全な
正義の神であられる
イエス・キリストの
御前に
上げられるときには、
自分の罪と
向き合わなければ
ならないのです。



みのない者とは認められない。また、わたしたちの思いもわたしたちを罪に定める。そして、このような恐ろしい状態の中で、わたしたちはあえて神を仰ぎ見ようとはしないであろう。そして、神の御前から隠れるために、岩や山に自分の上に落ちてくるように命じることができれば、喜んでそうするであろう。

しかし、それはできない。わたしたちは出て来て、栄光と力、威勢、尊厳、主権を帯びておられる神の御前に立ち、永遠の恥辱を感じながら、神の裁きがすべて公正であること、神がすべての業を公正に進めておられること、神が人の子らに対して憐れみに富んでおられること、神が御名を信じて悔い改めにふさわしい実を結ぶあらゆる人を救う一切の権威を持っておられることを、認めなければならない。」(アルマ 12 : 14 - 15)

救い主が福音とは何かを説かれたとき、その

中心となったのはこの裁きに関することでした。主は言われました。

「見よ、わたしはあなたがたに、わたしの福音について告げた。わたしがあなたがたに告げた福音とは、次のとおりである。すなわち、父がわたしを遣わされたので、わたしは父の御心を行うために世に来た。

父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた。十字架に上げられた後で、わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。わたしは人々によって上げられたが、そのように人々は、父によって上げられてわたしの前に立ち、自分の行いが善いか悪いかによって、行いを裁かれるのである。

このために、わたしは上げられたのである。それで、父の力によってすべての人をわたしのもとに引き寄せ、彼らが各々の行いに応じて裁かれるようにするのである。」(3 ニーファイ

27:13 - 15)

「十字架に上げられる」とは、もちろん、イエス・キリストの贖罪を象徴的に表しています。この贖罪によって、主はわたしたち一人一人に課される正義の要求を満たしてくださいました。言い換えれば、キリストはゲツセマネとゴルゴタで苦しみ、亡くなられたことにより、わたしたちの罪のために正義が要求する代価をすべて支払ってくださったのです。それゆえ主は正義の代理人であり、正義の体現者でもあられます。神は愛であられるのと同様に、正義でもあられます。わたしたちの負債や義務は、今やイエス・キリストが肩代わりしてくださっています。そのため、イエスがわたしたちを裁く権利をお持ちなのです。

その裁きはわたしたちの行いに応じて下されると主は語っておられます。主の福音が特に「良きおとずれ」と呼ばれるのは、主がわたしたちの悔い改めに応じて赦しの賜物を与えてくださるということです。したがって、悔い改めを含め、わたしたちがなすべきことをするなら、主はわたしたちの罪や過ちを赦してくださるのです。もしわたしたちが悔い改めようとせず、赦しの賜物を拒むなら、今は主が負ってくださっている正義の罪科をやがては自分で負うことになるでしょう。主は言われました。「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。」(教義と聖約 19:16 - 17)

いつも御子を覚えるとは、何事も主から隠せないことをいつも覚えることを意味します。わたしたちの生活のどんな行い、言葉、あるいは思いでさえも、御父と御子に知られないでいることはできません。テストでのカンニングや万引き、みだらな空想や無節制、うそが見逃されたり、見過ごされたり、隠されたり、忘れられたりすることは決してありません。わたしたちが人生で「罰を逃れ」、ほかの人からはうまく隠しおおせたとしても、避けて通れない日が訪れ、純粹で完全な正義の神であられるイエス・キリストの御前に上げられるときには、自分の罪と向き合わなければならないのです。

この事実を考えると、わたしはことあるごとに、悔い改めよう、最初から罪を犯さないようにしようと努力せずにはいられていませんでした。あるとき、わたしたちが家を売るに当たって、契約書に誤りがあり、法的に買い主から本来より多くの金額を受け取る権利があることが分かりました。不動産業者は、わたしには記載された金額を受け取る権利があるが、金額の誤りをそのままにしておきたいかどうか尋ねました。わた

しは正義の具現者である主と相対して、間違っただけは買い主であり、自分には合法的な権利があったと説明しようとしている自分の姿を思い描きました。自分の説明に十分な説得力があるとは思いませんでした。恐らく、同時に憐れみを請うことになるだろうと思ったからです。そのままの金額を手に入れるなどという不名誉なことをしたら、自分自身を受け入れて生活することはできないと分かっていました。不動産業者には、双方が納得して決めた元の値段で取り引きすると返事をしました。どんな額のお金よりも、その取り引きにおいて悔い改めるべきことは何もなかったと自覚している方が、わたしにはずっと価値があることだったからです。

わたしは若いとき、自分の不注意できょうだいの一人に軽いけがをさせてしまったことがありました。愚かにもわたしは当時告白せず、その事故にわたしが関与していることはだれも知りませんでした。何年も過ぎて、主にもっと受け入れていただくために自分の人生で何を正すべきかを示してくださいよう神に祈っていました。そのとき、この事故のことが頭に浮かびました。わたしはすっかり忘れてしまいましたが、御霊は、それが未解決の罪であり、告白する必要があるとささやいてくださいました。わたしはきょうだいに電話して謝り、赦しを求めました。すると彼は、寛大にもすぐに赦してくれたのです。事故が起こったときに謝っていれば、それほど恥ずかしい思いや後悔を感じずに済んだでしょう。

わたしが忘れていた遠い昔の出来事でさえも主は忘れておられなかったということは、わたしにとって興味深く、意義深いことでした。罪は自然に解決したり、ただ消えうせたりはしません。罪は永遠に隠しおおせるものではありません。罪は、解決しなければならぬものです。しかしすばらしいことに、救い主の贖いの憐れみのおかげで、損なわれた正義の要求をわたしたちが自ら満たすのに比べれば、より楽で苦痛の少ない方法で対処することができます。

また、裁きについて考えるとき、何も見過ごしにされることはないのも、勇気を出さなければなりません。それはつまり、たとえどんなに小さくとも、従順な行いや、親切、善行が忘れられることはなく、それにふさわしい祝福が差し控えられることはないということも意味するからです。

3. 恐れずに、救い主に助けを求める

回復の初期の時代、イエスはジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに勧告と慰めを与えられました。二人はモルモン書の翻訳に携わっており、間もなく神権を付与されることになっていました。当時ジョセフは23歳、オリバーは22歳

試練や落胆、悲しみが
様々な形で
わたしたち一人一人に
訪れることを
わたしは
知っています。
しかし、結局は
偉大なる
仲保者によって、
万事が
わたしたちの
益となるように
ともに働くようになる
ことも知っています。



でした。常にではないにせよ、迫害などの問題は頻繁にありました。このような状況の中、1829年4月に主は彼らに次のような言葉を語られました。

「それゆえ、小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができなからである。

見よ、わたしはあなたがたを罪に定めない。あなたがたの道を行き、これからはもう罪を犯さないようにしなさい。わたしがあなたがたに命じた業をまじめに行いなさい。

あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。

わたしのわきを突き刺した傷跡と、わたしの手と足にある釘くぎの跡を見なさい。忠実であり、

わたしの戒めを守りなさい。そうすれば、あなたがたは天の王国を受け継ぐであろう。アーメン。」(教義と聖約6:34-37)

もちろん、あらゆる思いの中で救い主を仰ぎ見ることも、「いつも御子を覚える」もう一つの方法です。そのようにするとき、わたしたちは疑ったり恐れたりする必要がありません。救い主には、贖罪を通して天と地のすべての力が与えられており(マタイ28:18参照)、わたしたちを守り、その必要にこたえる能力も意志もお持ちです。主がそのことをジョセフとオリバーに思い出させてくださったように、わたしたちにも思い起こさせてくださるのです。わたしたちに必要なのは、ただ忠実であることです。そうすれば無条件に主に頼ることができます。

ジョセフとオリバーが慰めに満ちた啓示を受ける前、預言者は身を切るような苦痛に満ちた

経験を通して、救い主に頼るべきであり、人の意見や圧力、脅しを恐れてはならないことを学びました。

1828年6月にジョセフは、マーティン・ハリスがニューヨーク州パルマイラにいる自分の家族に見せるために、モルモン書の翻訳原稿116ページをペンシルベニア州ハーモニーから持ち出すことを許しました。マーティンが約束どおりに戻って来なかったため、心配になったジョセフはニューヨーク州マンチェスターにある両親の家に駅馬車で向かいました。預言者は直ちに使いを送り、マーティンを呼び寄せました。到着したマーティンは、手もとに原稿はなく、どこにあるかも分からないことを認めました。

ジョセフは叫びました。「おお、わたしの神よ、わたしの神よ。……すべてが失われてしまった、失われてしまった。どうしたらよいのだろう。わたしは罪を犯した。求める権利のないことを主に求めたために、神の怒りを招いたのだ。……いと高き御方の天使からどのような叱責を受けても、わたしはそれに甘んじなければならない。」

翌日、預言者はハーモニーに戻りました。ハーモニーに着くと、ジョセフはこう語りました。「わたしはへりくだり、熱烈な祈りを主にささげ、……もしできることなら、主が憐れんでくださり、わたしが行った主の御心に反するすべての行いを赦してくださるよう嘆願しました。」²

神よりも人を恐れたジョセフを叱責された後、主はジョセフに言われました。

「あなたはジョセフである。あなたは主の業を行うために選ばれた。しかし、背きのゆえに、あなたは用心しなければ落ちるであろう。

しかし、神は憐れみ深いということ覚えておきなさい。それゆえ、あなたが行ったことで、わたしがあなたに与えた戒めに反する行いを悔い改めなさい。そうすれば、あなたはまた選ばれた者であって、再び業に召される。」(教義と聖約3:9-10)

「しばらくの間、主はウリムとトンミム、および版をジョセフから取り上げられた。しかしこれらは間もなくジョセフに戻された。預言者は次のように回想している。『天使は喜んでウリムとトンミムを返してくださいました。そして、神がわたしの忠実さと謙遜さを喜んでおられること、悔い改めて熱心に祈り、それによって自分のなすべきことを果たしたわたしを愛しておられること、……そして翻訳の業を再び始められることを告げられました。』前途に待ち受ける大いなる業に取り組むに当たって、ジョセフは主の赦しを受けたという快い思いを持ち、主の御心を行う新たな決意を固めていた。」³

この経験の後、神に頼り、人のすることを恐れないという預言者の決意は揺るぎないものになりました。その後のジョセフの生活は、キリストの力と憐れみに頼ることによって主を覚えるとはどのような意味かを示す輝かしい模範となりました。ジョセフはこのことに対する理解を次のような言葉で表現しています。それは彼がミズーリ州リバティーで投獄され、非常に困難で耐え難い状況にあったときのことでした。

「兄弟たちよ、あなたがたの知っているように、非常に大きな船も、嵐のときにはごく小さな舵に大いに助けられ、風と波に対して進路を保つことができる。」

したがって、親愛なる兄弟たちよ、わたしたちの力の限りすべてのことを喜んで行おう。そして願わくは、その後、わたしたちがこの上ない確信をもって待ち受けて、神の救いを目にし、また神の腕が現されるのを見ることができるよう。」(教義と聖約123:16-17)

簡単に言えば、「いつも御子を覚える」とは、恐れを抱かずに生活すること意味します。試練や落胆、悲しみが様々な形でわたしたち一人一人に訪れることをわたしは知っています。しかし、結局は偉大なる仲保者によって、万事がわたしたちの益となるようにともに働くようになることも知っています(教義と聖約90:24;98:3参照)。ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)は、信仰について、非常に平易な言葉で次のように言い表しました。「万事うまくいきます。」⁴ わたしたちはいつも救い主を覚えるとき、主の力とわたしたちへの愛によって、乗り越えることができるという確信を抱いて、「力の限りすべてのことを喜んで行」うことができるのです。

いつも主を覚え、「いつも御子の御霊を受けられ」ますように(教義と聖約20:77)。イエス・キリストの贖罪の力についてわたしの証を述べます。復活された主が実に生きたもうことを証します。御父と御子がわたしたち一人一人に抱いておられる限りない愛を証します。そしてわたしたちが、あらゆる方法で表現されているその愛をいつも覚えて生活できるように祈ります。■

注

1. ブリガム・ヤング, "Discourse," *Deseret News*, 1856年9月10日, 212
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』, 69, 71参照
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』, 71
4. ジェフリー・R・ホランド「ゴードン・B・ヒンクレー大管長——信念と勇気の人」『リアホナ』1995年6月号特集号, 6

レベッカ・スウェイン・ウィリアムズ——

「確固として揺らぐことなく」

絵リチャード・ハル

家族が教会に反感を持っていたにもかかわらず、この初期の改宗者は信仰を失うことなく、御業に献身しました。

ジャニス・リン・ジョンソン

1834年6月、この若い母親は、彼女の父親から勘当すると脅されながらも、福音が回復されたことを確信していると大胆に、また切々と訴える手紙を書きました。父親の気持ちが変わる見込みはほとんどないことは分かっていたはずでしたが、レベッカ・スウェイン・ウィリアムズは勘当されることを承知のうえで信念を貫きました。父親のアイザックにはっきりと伝えたのです。モルモン書と教会は預言者ジョセフ・スミスが言ったとおり真実であること、そして三人の証人が「聖なる天使が天から降り、版を持って来て自分たちの目の前に置いたと、公の集会で宣言する」のを彼女が聞いたことを。¹

レベッカの証が人の心を動かすのは、証に力があつたばかりでなく、彼女に揺らぐことのない証と不屈の精神があつたためでした。父親に拒まれ、夫のフレデリック・G・ウィリアムズも一時教会から離れていたという事実があるにもかかわらず、レベッカの信仰は決して揺らぐことがありませ

んでした。レベッカの粘り強さと不屈の精神は、今日のわたしたちにとって模範です。人生で最大の試練に遭おうとも、最も身近な家族から信仰を否定され、冷たくされようとも、確固として信仰を守り通すにはどうしたらよいのかを、彼女の模範から学ぶことができます。

教会への改宗

レベッカ・スウェインは、1798年、アメリカ合衆国ペンシルベニア州で10人きょうだいの末っ子として生まれました。² レベッカが9歳のころ、家族はアメリカ合衆国とカナダの国境に近いナイアガラに引っ越しました。新しい住居はナイアガラ砦に非常に近く、米英戦争で砦が攻撃されたときには銃声が聞こえたほどでした。幼いころから、レベッカには怖いもの知らずのところがありました。あるとき独りで森の中を歩いていてクマに遭遇したことがありますが、持っていた日傘をクマの目の前で何度か開いたり閉じたりすると、クマは逃げて

行ってしまいました。³

17歳のとき、レベッカはオンタリオ湖を渡り、デトロイトにいる姉のところに遊びに行きました。そのとき、水先案内をしていた長身で黒いひとみのフレデリック・グランジャー・ウィリアムズと出会います。幾度も会ううちに親愛の情が愛情に変わり、二人は1815年の終わりに結婚しました。ウィリアムズ一家はアメリカ合衆国オハイオ州の広大な西部保留地を転々とした後、1828年ころ、ようやくカートランドに定住しました。夫が医院を開業し、名医として名をはせるようになると、レベッカは助手を務めるようになりました。彼らには4人の子供がいました。

1830年の秋、モルモンの宣教師の第一陣がカートランドに到着しました。レベッカは興味深く彼らの話を聞き、宣教師の集会にはすべて出席しました。子供たちまで連れて行ったのです。フレデリックも、医師の仕事の合間を縫って、できるかぎり出席しました。夫婦で一緒に研究し、話し合い、学んでいたのですが、フレデリックの方がやや熱心さ



に欠ける嫌いがありました。そのうちレベッカは福音が真実だと確信するようになりました。

伝記の作成者は、後にレベッカをエデンの園のエバのようだと表現しています。レベッカは、福音の聖約の完全な祝福を受ける「必要があることを最初に理解した人」だったのです。⁴ 1830年10月、レベッカはバプテスマを受けました。

フレデリックはまだ決心がつかないでいました。教会に入るのをやめようと思ったことが何度かありましたが、神聖な新しい聖典、モルモン書に引き戻されるような感じがして、結局やめることはできませんでした。御霊が働きかけてくださったおかげでフレデリックは福音が真実であることを認め、レベッカの模範に従ってバプテスマを受けました。

献身的な奉仕

教会はすぐにフレデリックとレベッカの生活の中心となり、家族に直接影響を与えるようになりました。フレデリックはバプテスマと確認を受けた後すぐに長老に聖任されました。そして翌日には、数週間後にオリバー・カウドリと伝道に出るという割り当てを、喜び勇んで引き受けました。この伝道は当初3週間のはずでしたが、実際にはミズーリへの10か月の旅となりました。フレデリックはこれ以降、何度も長期にわたって家を空けるようになります。伝道活動と大管長会の一員という召しのために、頻繁に出かけました。レベッカは、初期の教会の多くの姉妹と同様、何か月もの間夫の助けなしに家庭を守り、子供を育てたのです。

このような状況にもかかわらず、レベッカはいつも忠実で、進んで奉仕をしていました。預言者ジョセフ・スミスとその家族は、カートランドに移っ

て来た当初、一時ウィリアムズ家に寄留しました。試練の中にあってもレベッカは預言者と家族の世話をし、誠意を示しました。あるとき、暴徒がやって来て家を取り囲み、ジョセフを出せと要求したのです。レベッカはジョセフに自分の帽子とマントをかぶせてジョセフであることが知れないようにしました。ジョセフは家を脱出し、人込みに紛れて無事に逃れることができました。

1832年3月、レベッカは再度預言者に貴重な助けを与えることになります。オハイオ州ハイラムのジョン・ジョンソンの農場に突然暴徒が現れ、ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに容赦なく襲いかかったのです。暴徒はシドニーを袋だたきにして気絶させ、ジョセフののどに毒薬を流し込もうとした後、預言者にタールを塗ってその上から羽根をばらまきました。夫の姿を見てタールを血だと思ったエマ・スミスは、気を失ってしまいました。⁵ その晩レベッカとフレデリックは、血にまみれ傷だらけのジョセフの体からタールをはがし、ジョセフの子供たちの世話をしました。そのかいあって、ジョセフは翌朝にはどうにか起き上がり、説教を行うことができました。

自信をもって福音を分かち合う

レベッカはいつも、家族、特に父親に、回復された福音を受け入れ、信仰がもたらす喜びあふれる祝福を受けてほしいと願っていました。リーハイと同じように、レベッカも神の愛を味わい、最も身近な人たちに伝えたいと思ったのです(1ニーファイ8:12参照)。その望みがあったため、レベッカは自分の改宗談と証、教会員として感じている大きな喜びを、情熱を込めて家族に書き送りました。

ところが、父親はレベッカが改宗したことを知って激怒したのです。教会

をやめるよう命じた短い返事が来ただけでした。しかしレベッカの信念は揺るぎませんでした。家族歴史の作成者によれば、レベッカは父親に「モルモンの教義が真実だという確信はますます強くなっている」という言葉と彼女自身の力強い証を書き送っています。⁶ しかし残念ながら、この手紙はレベッカが望むような結果を生じませんでした。父親は彼女を勘当すると脅し、教会をやめなければ一切の連絡を絶つと断言したのです。

それでもレベッカはひるまず、福音を伝える努力を続けました。1834年にもう一度手紙を書きました。彼女が父親にあてた手紙の中で唯一現存するもので、父親にモルモンをまったく受け入れてもらえないことに対する心の痛みがよく表れています。

父親は以前、教会、特にモルモン書と三人の証人について非難する新聞記事を読んだことがあり、それで彼女を思いとどませようとしたのです。

「お父さんがモルモン書のことであまりに心配しているので、心が痛みます」と彼女は書いています。レベッカはモルモン書の聖句と、ジョセフ・スミスが新たに受けた啓示を引用し、モルモン書に対する証を伝えました。また、3人の証人が選ばれるという預言がモルモン書に書かれていることも説明しました。「三人の証人の口を通して」モルモン書が真実であることが「確認される」という昔の預言者エテルの言葉を証拠として引用したのです(エテル5:4)。⁷

そしてレベッカは、デビッド・ホイットマー、マーティン・ハリス、オリバー・カウドリの三人の証人に実際に会ったことがあり、天使と金版を見たと彼らが証するのを自分の耳で聞いたことを伝えました。証人たちの証と人格を擁護したうえで、この書物をさらに探究するよう父親に勧めました。

父親に、「わたしたちがこの御業を通して祝福を受けていることが分かったら、お父さんとお母さんも福音を信じるようになる」と確信しています」と伝えていきます。⁸

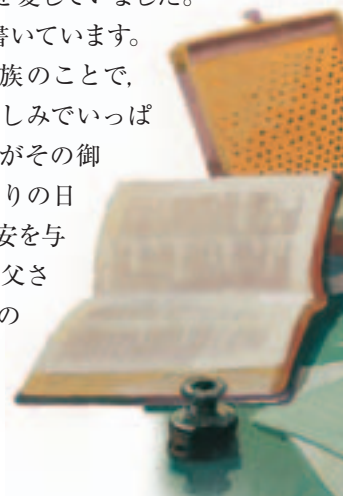
レベッカはモルモン書の最後にあるモロナイの約束を引用しながら「神が思いを照らしてくださり、真理を理解できるよう」神に求めてくださいと家族に訴えました。そして、「イエス・キリストがお教えになったとおりに福音を教えられる」宣教師を送って両親がもっと福音を理解できるように助けることを計画しました。⁹ 結局父親は、福音を受け入れませんでした。

レベッカといちばん親しかった兄のジョンに書いた手紙さえ、開封されないまま何通も戻って来ました。戻って来た手紙の一つには、裏にジョンのこんな言葉が書かれていました。「レベッカから手紙が来ても読むな、返事も書くなとお父さんから言われています。さようなら。神の祝福がいつもありますように。あなたの兄、ジョンより」¹⁰

それでもレベッカの伝道の努力は実り、いちばん上の姉サラ・スウェイン・クラークが改宗しました。サラがミシガン州で教会に入ったのは1832年のことです。サラの娘たちも教会に入り、生涯忠実でした。

最後まで忠実に

父親の選択に心を痛めながらも、レベッカは父親を愛していました。レベッカはこう書いています。「血を分けた家族のことで、わたしの胸は悲しみでいっぱいです。……主がその御霊によって終わりの日にお父さんに平安を与えてくださり、お父さんにとって最高の日々となるよう祈っています。



……この御業に対して、お父さんが気持ちと和らげてくださいますように。わたしたちは主が導いておられることを知っていますから、この大義を守り通すつもりです。このことを分かってください。」¹¹

レベッカは父親の不信仰だけでなく、夫の信仰面での問題とも関わらなければなりません。1837年から1838年にかけて、当時大管長会の一員だった夫フレデリックは、教会でほかの指導者と意見が衝突することがよくありました。一時は教会を去り、破門されたことまであったのです。しかし、間もなくフレデリックは謙遜けんそんになって教会に再び入り、通常の会員としてこの世を去りました。レベッカが当時感じていたことを記した記録はありませんが、聖徒たちとともに忠誠を誓い、信仰を守り通したことを彼女は後悔していなかったことでしょう。

フレデリックが教会をやめたといううわさは、ニューヨークにいたレベッカの父親アイザックの耳にも入り、彼はレベッカも信仰を捨てるのではないかと期待しました。しかし、レベッカから届いた手紙は

彼女が信仰を守り通していることを示していました。その返事を読むと、アイザックはゆっくりと首を振って言いました。「悔い改めの言葉が一つもない。」¹²

レベッカはジョセフ・スミスと回復された教会を擁護しました。そして、父親よりも教会を選んだことで犠牲を強いられたにもかかわらず、父親を敬うレベッカの気持ちは変わりませんでした。父親の教えを大切に、愛と感謝を伝えたのです。1834年に書いた手紙は次の言葉で終わっています。「愛するお父さんから受けた……教えをわたしは決して忘れないでしょう。」¹³

レベッカの父親は1839年に亡くなりました。レベッカが夫を失ったのはそのわずか3年後のことでした。このようにつらい境遇にあったにもかかわらず、レベッカは信仰と勇気を持ち続けました。聖徒たちがユタを目指して西部に旅立ったとき、レベッカは息子エズラの家族と一緒に旅をし、自ら荷車の手綱を取りました。後

にはミルクリークの農場の管理を引き受けました。ソルトレークのタバナクルが完成

して、できる範囲で何か寄付するよう求められたときには、^{せいざん}聖餐の台に置くトレーを作る材料にしてほしいと、銀製のスプーンセットをささげました。そして1860年、遠く離れたユタ州キャッシュバレーに家族で移住するようブリガム・ヤング大管長から求められたときには、体が衰弱していたにもかかわらず、自分で馬車の手綱を握って、快く転居しました。

レベッカは1861年9月25日、ユタ州スミスフィールドで亡くなりました。自分の信念と真理の知識と、経験から学んだことに生涯にわたって忠実でした。最後まで「確固として揺らぐこと」がなかったのです（モーサヤ5：15）。■

表記と句読点は現行のものに変更してあります。

注

1. レベッカ・スウェイン・ウィリアムズからアイザック・フィッシャー・スウェインにあてた1834年6月4日付けの手紙。ソルトレーク・シティ、教会歴史図書館所蔵。
2. レベッカ・ウィリアムズの経歴については以下の資料を参考にしています。ナンシー・クレメント・ウィリアムズ、*Meet Dr. Frederick Granger Williams... and His Wife Rebecca Swain Williams: Read Their True Story in the First Introduction — after 100 Years* (1951年)；およびフレデリック・グランジャー・ウィリアムズ、"Frederick Granger Williams of the First Presidency of the Church," *BYU Studies*, 全12巻, 第3巻 (1972年), 243 - 261
3. ウィリアムズ, *Meet Dr. Frederick Granger Williams*, 5
4. ウィリアムズ, *Meet Dr. Frederick Granger Williams*, 55
5. *History of the Church*, 第1巻, 263
6. ウィリアムズ, *Meet Dr. Frederick Granger Williams*, 63
7. 1834年6月4日付けのレベッカ・ウィリアムズの手紙も参照
8. 1834年6月4日付けのレベッカ・ウィリアムズの手紙
9. 1834年6月4日付けのレベッカ・ウィリアムズの手紙
10. ウィリアムズ, *Meet Dr. Frederick Granger Williams*, 63より引用
11. 1834年6月4日付けのレベッカ・ウィリアムズの手紙
12. ジョージ・スウェイン・ウィリアムズの1839年3月17日付けのタイプで打った手紙。ソルトレーク・シティ、教会歴史図書館所蔵。
13. 1834年6月4日付けのレベッカ・ウィリアムズの手紙



マーシャル諸島で

まっすぐに航海する

教会機関誌

ジョシュア・J・パーキー

古代の船乗りは、太陽、月、星の位置を頼りに海を旅しました。夜は北極星を熱心に見詰めました。この星は位置が定まっていることから、船乗りにとっては天の錨^{いかり}として、目的地へと正確に航海する助けとなっていました。

太平洋のマーシャル諸島で、船乗りはもう一つの方法を発見しました。そこでは、環礁^{かんしょう}と島々の間に起こる潮の流れ、あるいは海のうねりに一定のパターンがあるのです。熟練した船乗りは、それぞれが一方通行の道路のような複雑なクモの巣状のうねりに従うことで、島あるいは環礁を伝って、何百マイルも進むことができます。うねりの位置と流れる方向が分かる人は、ほかの旅人を目的地まで安全に導くことができます。

同様に、イエス・キリストは完全な模範です。その真の光はわたしたちを導いてくれます。海のうねりのように、主

の律法と儀式が天の家へと安全に導いてくれます。さらに、わたしたちの周囲には、航海士長である主の役割と調和しつつ奉仕し支援してくれる人たちがいます。以下の物語で、岩だらけの浅瀬^{あらし}や嵐のような試練を通り抜けてキリストのみもとへと導かれるように、ほかの人たちがどのように助けてくれたかを、マーシャル諸島の3人の教会員が話してくれます。

義になかった女性の影響

ヒロボ・オベケタン兄弟はソファに深々と座ってほほえみます。彼とその妻リンダは、4人の子供と姉妹宣教師との家庭の夕べをたった今終えたばかりです。尾頭付きの魚を丸々一匹料理した夕食を宣教師にごちそうしました。これがマーシャル諸島共和国の首都マジユロの伝統なのです。ヒロボは自分の人生を語る時、教会、福音、そして家族、



岩だらけの浅瀬にも似た人生を航行するときに、
天の家へと帰れるように助けてくれる
忠実な会員の案内により
わたしたち一人一人が恵みを受けます。

特に妻に対する深い感謝の念を表します。

2009年6月のことです。

前日にマーシャル諸島共和国

マジュロステーキが組織され、ヒロボは

最初のステーキ幹部書記として奉仕するよう召されました。

最近召されたばかりのステーキ会長であるアーリントン・ティボン会長は、ヒロボのことを「ほんとうにとっても強い」、島の忠実な指導者という言葉で表現します。

しかしヒロボは、最近までそうではなかったことを素直に認めています。実際、妻こそが強い人、すなわち、自分の人生に影響を与えた人であると認めているのです。彼はこう語っています。「わたしは8歳のときにバプテスマを受けましたが、16歳のときにあまり活発ではなくなりました。」

数年後、彼とリンダは一緒に住むようになりました。しかし、結婚はしていませんでした。リンダは教会員ではありませんでした。2000年、リンダはヒロボが子供のころバプテスマを受けていたことを知り、間もなく教会に興味を持ち、姉妹宣教師と会うようになりました。

「妻は2年間福音を学んだ後に、バプテスマを受けようと決心したのです」とヒロボは振り返ります。「まず結婚しなければなりませんでしたが、わたしは結婚に関心がありませんでした。わたしは当惑しました。この世的な誘惑にすっかり染まっていたからです。家族の大切さを理解していませんでした。だれの意見も気にしないし、聞く耳も持たせませんでした。」

リンダはバプテスマを受けていませんでしたが、子供たちを教会の福音の中で育てました。毎年、バプテスマを受けることができるよう結婚してほしいとヒロボに頼みましたが、その度に断られました。その間に二人の娘はバプテスマを受けました。しかし、ヒロボはどちらのバプテスマ会に

も出席しませんでした。

そうこうするうちに、2006年、9歳の息子タカオが、急病で高熱を出し、亡くなりました。マジュロ地方部の会員が約300人、葬儀にやって来て家族を支えました。

「彼らの支えは、わたしにとってほんとうに大きな助けとなりました」とヒロボは語ります。「神は、恐らく、わたしに何かを語っておられるのだと考えるようになりました。」

彼は、自分が教会員であるにもかかわらず、妻がバプテス



マを受けられないのは、自分が妨げになっているためだと思い始めました。「彼女はどんどん信仰が強くなっていきました。実にわたしを奮い立たせてくれました」と振り返ります。

「そこでわたしは腰を下ろして、自分の半生を考えました。そして、こう自問しました。『わたしはこれからも今と変わ



らぬ生活を送るのだろうか。残りの半生を神のために働ける見込みがあるだろうか。』わたしは祈り、教会に戻って神のために働くことを考えるようになったのです。」

ヒロボは宣教師と一緒にもう一度教義を学び始めました。マーシャル諸島共和国マジロ伝道部のネルソン・ブリーク会長も、アーリントン・ティボン地方部会長（当時）を含むその他の会員と同様、友人として助けました。とうとうヒロボは教会に戻ると明言しました。やがて聖餐会だけでなく、日曜学校や神権会にも出席するようになりました。ついにヒロボは決心したのです。

「戻って来たとき、わたしはこう言いました。『まさしくこれだ。これこそこれからの人生だ。』以来、わたしの人生は180度変わりました。」

ヒロボとリンダは2008年8月30日に結婚しました。程なく彼はアロン神権を受け、妻にバプテスマを施しました。2か月後、ヒロボはメルキゼデク神権を受け、地方部幹部書記として召されました。

ヒロボは妻を見て、ほほえみます。「彼女は、このわたしからバプテスマを受けることが信じられなかったでしょう」とヒロボは言います。「分かりますか。妻にとっては、2000年から2008年まで8年かかったのですよ。まったくすごい人です。」

義にかなった父親の模範

時として、わたしたちの案内人は、船乗りのように、わたしたちのすぐ近くで、わたしたちが人生の舵取りに成功できるよう必要なことを教えてくれます。多くの場合、船乗りは、従うべき模範をわたしたちに示すことで、このことを達成します。パトリシア・ホリウチ姉妹の父親フランクがその良い例です。

宣教師と出会ってからというもの、フランクは繰り返し彼らを夕食に招待するようになりました。やがてレッスンを受け始めました。しかし、家族のだれも教会とのつながりを持ちたいとは思いませんでした。パトリシアはこう述べています。「宣教師が来るのに気づくと、わたしたちは皆、わたしも弟も妹たちも、走って逃げました。」

その後、2007年7月に、フランクはネルソン・ブリーク伝道部会長からバプテスマを受けました。パトリシアやきょうだいにとって、その後を決定づける瞬間でした。

「父が変わっていく姿を目の当たりにしました」と彼女は語ります。「福音に父の心を動かす力があるのなら、わたしの心を動かし、人生を変える力もあるはずだと思いました。そこでわたしは、姉妹宣教師と学ぶことにしました。モルモン書と聖書を研究するように求められました。わたしはそれ以前に弟とけんかをしたことがあり、まだ赦していませんでした。そんなときに、もしあなたが人を赦すならば、神もあなたが人を赦してくださいと、という聖句を読みました。」(3 ニーファイ 13:14 - 15 参照)

パトリシアは、人生を変え、清くなり、平安を得るためには、まず弟を赦さなければならないとはっきり分かりました。そして、そのとおり実行しました。

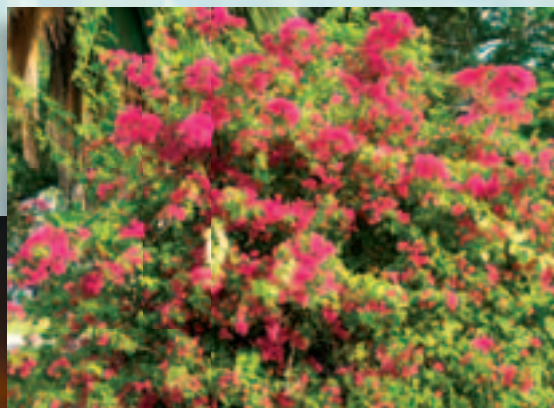


「悪い態度を捨てて、戒めを守る新しい人になり、胸の高鳴りを覚えました。真の教会に加わるためにバプテスマを受けなければならぬと思いました」と語っています。「教会はわたしを正しい道に導いてくれました。悪い影響から引き離してくれました。両親を敬うこと、学校に残ること、正しい道にとどまることを教えてくれたのです。」

義にかなった男性の影響力

リディア・カミナガ姉妹は、ヒロボ・オベケタン兄弟と同じく、教会員の家庭に生まれましたが、10代のときにあまり活発ではなくなりました。しかし、教会に戻るまでの道のりにまつわる話

左上——ヒロボ・オベケタン兄弟(前ページで家族と写っている)はホテル支配人として働いています。下——バトリシア・ホリウチ姉妹は、2009年6月、マーシャル諸島で開かれた最初のヤングシングルアダルトカンファレンス(右下)の指導者でした。



世界共通のチャレンジ

地理的にも文化的にも、また距離の面でも、ほかの末日聖徒と離れているマーシャル諸島の会員ですが、彼らも全教会員に共通する多くの難しい問題に直面すると語っています。

ステーキヤングシングルアダルトの指導者であるゲリー・ザキアス兄弟(右)はこう語っています。「人々がやって来てこう言います。『現代に預言者は必要ないし、これ以上の聖文は必要ないですよ。』会員の中にも、あまり聖文を読んでいない人、理解していない人がいます。だから信仰が揺らぐようなことをだれかに言われると、自分が真実だと信じていることを撤回してしまうのです。」



ゲリーにとって解決策は単純です。「モルモン書、回復、ジョセフ・スミスについて祈り、真実であるかどうか知るようにと宣教師から求められました。ある夜のこと、わたしはひざまずいて祈っていました。そのとき御霊を感じたのです。かつて経験したことのない気持ちでした。わたしは宣教師から学んだことが真実であると知っています。モルモン書を読むことで、若い改宗者だったわたしの証は強くなりました。」バプテスマを受け、伝道に出てから今に至るまでについて触れ、ゲリーは次のように語っています。「わたしの証は、モルモン書を読み、聖文と預言者の言葉を学ぶにつれて強くなりました。」

エルネスト・ミー兄弟(右)は、マーシャル諸島でゲリーと同じ職場で働く教会翻訳者です。多くの若人が不道德に身を任せていると語っています。彼は、細くて狭い道から離れないように、考え方を同じくする友人と健全な活動に参加します。「伝道に出る前には、日曜日と月曜日を除く毎日、教会でバスケットボールをしました」と語ります。



ジェンロクワードのマイケル・イオン兄弟(右)は、2006年に教会に加わりましたが、そのときの犠牲はかなりのものでした。家を出て行かなければならなくなったのです。それにもかかわらず、信仰と確信を示してバプテスマを受けました。



ちょうど1年後、彼は宣教師として召されました。任地はマーシャル諸島でした。つい最近マイケルの家族は教会に興味を示し、宣教師から福音を学び始めました。



は、ほんとうにすばらしいものです。

リディアと夫カミナガ・カミナガ兄弟は、二人とも教会の福音の中で育ちました。「教会の教えに疑いを持ったことは一度もありませんでした」とカミナガは語っています。「いつも信じていたのです。」

しかしリディアの人生は異なる方向に進みました。中学1年のときのことを彼女はこう語っています。「学校でモルモンはわたし一人で、疎外感がありました。友人がするのと同じようなことをしました。優先順位を間違っていたのです。」

両親はリディアを教会員の家族と過ごさせるためにユタ州プロボに送りました。その家族から影響を受けて、福音に従った生活をする気になってくれるかもしれないという期待があったからです。彼女はその後の人生に役立つ様々なことを学びましたが、当時は教会の活動に興味を持つことはありませんでした。

2002年1月、リディアはマーシャル諸島に帰って来ました。カミナガが日本での伝道から帰還してちょうど1か月たったころのことです。間もなく二人は出会いました。リディアは教会の標準に従った生活を送っていませんでしたが、カミナガは彼女の家にも何度もやって来ました。リディアの隣のゲーリー・ザキアス兄弟を訪ねたいということでしたが、それは表向きの理由でした。

「わたしには悔い改めに関する
強い証あかしがあります」と

リディア・カミナガ姉妹は語ります。
夫カミナガ、娘ウエリサと。



やがてカミナガは決心しました。リディアとデートし、健全で清い交際をすることについて彼女の両親に話したのです。最初、両親はあきらめるように説得しようとしたのですが、カミナガは「最後にこう言いました。『まだ彼女が変わる可能性は残っていますよ。』」 そう言ったときに、部屋の雰囲気さがらりと変わりました。彼女のお父さんが涙を流してこう言ったのです。『これまでずっと教会に戻ってほしいと願っていました。やってみてください。』」

初めのうちは、カミナガのことをリディアは真剣に受け止めていませんでした。何ととっても、彼は立派な帰還宣教師で、



彼女はあまり活発ではない会員だったのです。

「でも、彼の見方はわたしと違いました。」リディアはこう述べています。だれとも付き合っていなかったのに、デートの誘いに応じました。「彼はわたしを連れ戻してくれました。彼のガールフレンドとして、わたしは自分の標準を正さなければなりません。彼はバプテスマの聖約を思い出させてくれました。聖文を読むことや家庭の夕べなど、すっかり忘れていたことをすべて思い出させてくれたのです。奉仕活動にも一緒に参加しました。二人でモルモン書を読みました。ファイヤサイドにも行きました。それまでとは異なる生活の仕方を教えてもらいました。教会に行くということは、聖餐会だけでなく日曜学校や扶助協会にも出席することでした。」

デートをしながら健全で心が高揚する時間をともに過ごすうちに、リディアの生活は変わり始め、証あかしも大きくなってきました。しかし、彼女にはまだ解決しなければならないことが幾つか残っていました。

「戻るのは大変なことでした」と彼女は認めています。「悔い改めは容易ではありませんでしたが、わたしは悔い改めについてほんとうに強い証があります。多くの点で、デートを通じてお互いをよく知ることができました。わたしは教会に戻るきっかけを得、物の見方も変わりました。」

「デートとは関係をはぐくむことです」とカミナガは付け加えます。

2002年11月28日、リディアとカミナガは結婚しました。1年後、二人はハワイ・ライエ神殿で結び固めを受け、ブリガム・ヤング大学ハワイ校で学びました。今は3人の子供と一緒にマーシャル諸島に住んでいます。リディアはワードで若い男性と女性を教える日曜学校の教師として、カミナガは若い男性会長として奉仕しています。

ヒロボ、パトリシア、そしてリディアは、忍耐し、粘り強く努力し、主の祝福を求めらば、たくさんの方が実現すると証しています。救い主に従い、聖霊の促しに耳を傾ける人は、古代の船乗りが旅人を導いて家に帰り着かせたように、周りの人の人生に大きな影響を及ぼすことができるのです。■

マーシャル諸島で最初のステーキ

何年もの間、マーシャル諸島の教会員は、自分たちの国にもステーキが欲しいと望んできました。2009年6月14日、望みはかないました。七十人のデビッド・S・バクスター長老はステーキを組織し、次のように述べています。「過去数年の間に、著しく会員が増えました。ステーキが作られたのは、教会が発展してそうせざるを得なくなったからです。しかし、ここまで到達するには長い年月かかりました。会員は多くの問題を克服しなければなりませんでした。」



マーシャル諸島のステーキ会長、アーリントン・ティボン会長（上）は、地方部会長として奉仕したときに、ステーキを望むなら、そのために働く必要があると会員に教えました。そこで地方部の指導者に、マラキ書第3章と第三ニファイ第24章から、什分じゅうぶんの一を納める祝福について会員に教えるよう指導しました。また、指導者は青少年と成人にモルモン書を学ぶよう勧めました。若人が12時間続けてモルモン書を読むという盛大なイベントまで開かれました。

またティボン会長は、「神殿で結び固めを受けることがどれほど大切か」会員に理解させるという目標を立てました。彼は次のように語っています。「エンダウメント〔を受けること〕は会員が多くの事柄を克服し、自分を変え、人生を変えるのに役立ちます。」

ティボン会長の指導の下、マーシャル諸島の会員は二つの神殿に参入しました。トンガとハワイの神殿です。いずれの神殿参入も、大きな犠牲の後に実現しました。しかし、ティボン会長の妻アンジェラ・ティボン姉妹が言うように、神殿訪問は「天の御父と教会に対する会員の献身に大きな影響を及ぼしました。」

「そうなのです」とティボン会長も同じように語ります。「このマジユロにおける霊的な生活が大いに向上したのが分かりました。」



教会に関心がありません

宣教師が息子たちを教えるにもかかわらず、妻がわたしに聞いてきたとき、わたしは一切教会とかかわりたくないと思っていました。しかし、彼女はすでに教会員だったので、だめだとは言いませんでした。

1週間に2回、宣教師が家に来るようになってから、わたしは隣の友人の家に行くようになりました。その友人は別のキリスト教会の熱心な会員でした。彼のところに行くと、彼は決まって聖書の話をしていました。わたしはそういうことには興味がないし、宗教を学びたくないと言ったのですが、それでも彼はわたしと一緒に聖書の勉強をすることを納得させようとするので、とうとうわたしは承諾してしまったのです。そのため、宣教師

1 週間に2回、宣教師が家に来るようになってから、わたしは隣の友人の家に行くようになりました。

が息子たちを教えている一方で、わたしは長い間友人と聖書を学びました。

ある日、宣教師が家に来る時間になりましたが、わたしは出かけないで、隣の部屋にいることにしました。宣教師が息子たちを教え始めると、わたしはいつの間にか、もっと聞きたいと思い始めていました。もっとよく聞こえるように、わたしはドアに近づいて行きました。宣教師は息子たちに使徒と預言者について教えていました。

後になって、わたしはもっと学びたいのだと気づきました。わたしは宣教師と話し、ひそかに宣教師から福音を学ぶことに決めました。妻はいつも一緒にいてくれましたが、ほかにはだれもこのことを知りませんでした。ですから、1週間に2回、

宣教師が息子たちに教えに来たとき、わたしは相変わらず隣の友人の家に行きました。そして別の日に、宣教師はわたしを教えてくださいました。

ある日、友人が教会の悪口を言ったとき、わたしは教会を弁護しました。マーシャル諸島の多くの人々がそうであるように、彼は教会についてあまり知りませんでした。また末日聖徒が信じている幾つかのことを誤解していました。彼がほかにも教会について否定的なことを言ったとき、わたしは再び教会を弁護しました。

このようにして7か月が過ぎました。そしてある日、宣教師がわたしに教えてくれたすべてのことが真実であると聖霊がわたしに証^{あかし}して下さっていたことに気づきました。福音についてまだあまり知りませんでしたが、バプテスマを受ける必要があると思いました。

2007年にバプテスマを受けてから、わたしはとても幸福でした。わたしたちはハワイ神殿に行くためにお金をため始めました。そこで妻と3人の子供たちとわたしは2008年12月に結び固められました。

教会員になってわたしの人生は大きく変わりました。副業であるレストランでの接待の仕事は辞めることにしました。というのも、帰宅が遅くなりましたし、服にたばこの煙がしみ込んだからです。収入は減りましたが、主はわたしたちを心に留めてくださいました。

わたしが感じた御霊^{みたま}とわたしが受けた祝福のおかげで、わたしは教会が真実であること、またジョセフ・スミスが神の預言者であることを知ることができました。■

タニントア・セックストン(マーシャル諸島)



クロスステッチの小馬

わたしには1年くらいかけて取り組んでいた2頭の小馬のクロスステッチの絵があります。ほぼ完成というところで、1頭の小馬の色を間違えたことに気づきました。馬の皮の色としてはおかしくない色だったので、キャンバス上で小馬の色と隣り合わせの色が調和していないことを見て取るまで間違いに気づかなかったのです。

わたしはがっかりしました。この作品に相当な時間をかけて取り組んでいました。ですから、間違えた色のステッチを抜き取ることを考えると、打ちひしがれる思いでした。目に涙をためながら、わたしはごみ箱のふたを開けてその絵を捨てました。

裁縫道具が置いてあるテーブルに座って美しい小馬の絵を失ったことを悲しみ、ほかの作品に取りかかろうとしました。でもそれはできませんでした。わたしが一生懸命に取り組んできたこの作品を簡単に手放すことができなかったのです。わたしはごみ箱を開けてその布を取り出しました。間違った色の後ろにある結び目を見つけ、丁寧にはさみで切り取りました。そして絵を裏返し、糸を外し始めました。

糸の取り外し作業が早く進むこともありました。時には簡単に進まないこともありました。自分がしてしまった間違いをどうやって元どおりにすればいいのか分かりませんでした。時々、一度に1ステッチずつ糸を切らなければならないこともありました。息子は、間違いを直すためによくもそこまでするものだと感心していると言い

ました。結局のところ、それはただのクロスステッチの絵にすぎなかったのですから。

ステッチを抜き取りながら、わたしは悔い改めについて、またわたしが犯してしまった過ちを正すことがどれほど大変なことであったかについて考え始めました。真の悔い改めには強い望みと努力と苦痛が伴いますが、それだけの価値があります。

小馬のクロスステッチを直しながら、悔い改めを通して、イエス・キリストの贖罪しよくざいがわたしの人生から罪という染みを取り除き、新たにやり直す助けとなるのだということを思い起こしました。わたしの「悔い改めの小馬」

この作品に
相当な
時間をかけて
取り組んでいました。
ですから、
間違えた色の
ステッチを
抜き取ることを
考えると、
打ちひしがれる思い
でした。

は家の壁に掛けられています。この絵はわたしに、正しいことを行うこと、自分に足りないところがあっても決してあきらめないこと、また悔い改めを通して贖罪が自分の足りないところを補ってくれるということを、優しく、しかしはっきりと思い起こさせてくれます。■

サンドラ・ジェニングス
(アメリカ合衆国、ニューメキシコ州)



でもここには 教会がありません

地中海に向けての旅行中、わたしはできるかぎり教会の集会に参加するよう努力しました。スペインのセビリヤで、わたしは地元の末日聖徒の集会所を探すため、ホテルの受付の助けと、地元の電話帳と街の地図の助けを借りました。わたしはスペイン語で教会の住所と名前を書きました。土曜日の午後、わたしは集会が何時に始まるのかが分かるように祈りました。そして10時までにそこに行くべきであるという強い気持ちを感じました。

日曜日の朝、9時30分に教会に向けて出発する直前に、集会所を見つけられるようにと再び祈りました。地図を頼りに、わたしは狭い道の迷路を何とか進んで行きました。とても気持ちのいい朝でした。カフェや、鳥がわめき声を上げる、鳥の市場を通りました。示されていた住所にたどり着きましたが、教会らしき建物は見当たりませんでした。わたしはその通りを行ったり来たりして探しましたが、無駄でした。わたしは困惑し不安になりました。しかも、もうすぐ10時になろうとしていました。

とうとうわたしは天の御父に祈りました。「あなた様はわたしに教会に行くようにとお命じになりました。そしてわたしはここに参りました。でもここには教会がありません。」

ちょうどそのとき、スーツを着た、身なりの良い男性がすぐ近くにやってきました。その人は教会員のように見えました。そしてわたしは彼を呼び止めるようにという気持ちを感じました。しどろもどろになりながら、わたしはその人に教会を探しているのだと言いました。彼はわたしに何かを言いましたが、理解できず、途方に暮れてしまいました。そこで彼が自分のブリーフ



スーツを着た、身なりの良い男性がすぐ近くにやってきました。その人は教会員のように見えました。そしてわたしは彼を呼び止めるようにという気持ちを感じました。

ケースを開けると、中には聖典に似た革表紙の本が2冊入っていました。わたしは“La Iglesia de Jesucristo”（イエス・キリストの教会）と自分が書いた1枚の紙切れを渡しました。彼はほほえむとわたしが来た道を指し示し、一緒に教会まで歩いて行きました。教会の建物はそこからほんの数分離れた違う住所にあり、そこにあると知らなければ簡単に見逃してしまう所がありました。それは大きな門の後ろの奥まった小さな一角にありました。

集会所に着いて間もなく、わたしを助けてくれたその人はそのワードのビショップにほかならず、集会は10時30分から始まるのだということが分かりました。わたしは余裕をもって教会にたどり着くことができました。

そのワードの断食証会あかしで、わたしは自分の証を述べるように感じました。宣教師がわたしの言葉を英語からスペイン語に通訳してくれる中で、わたしは自分の証を述べ、わたしが教会にたどり着けるように主がどのように道

を備えてくださったかを話しました。それからビショップが証を述べ、その朝いつもより離れた所に車を止めなければならない、そのためにいつもよりも遅く教会に着いたことを説明しました。わたしを見たとき、わたしが教会員のように見えたので、立ち止まって助けたのだということでした。そしてビショップは霊的に迷っている教会員について言及し、彼らが教会を見いだせるように助けなくてはならないと語りました。

何年もの月日が過ぎ、セルビアでの風景の記憶はだんだん色あせてきましたが、そこで教会を見つけた記憶は今でも鮮明です。わたしにとってあの思い出は、天の御父がわたしたちに抱いてくださっている大いなる愛の証であり、「共に働いて、万事を〔わたしの〕益となるようにして下さる」（ローマ8:28）すべての事柄を見いだそうとするなら、生活の中で主の手をはっきりと見る事ができるのです。■

ジュリー・イズメル
（オーストラリア、西オーストラリア州）

主の苦しみはわたしたちの苦しみを軽くしてくださる

新 生児集中治療室に勤務する看護師として、わたしは病気の赤ちゃんや、時折早産によるとても小さな赤ちゃんのお世話をしています。ある晩わたしは、17週間早く生まれ体重がたったの1ポンドちょっと（500g）の小さな赤ちゃんの担当になりました。赤ちゃんの手は小さく、脚はわたしの指くらいの太さしかなく、足はわたしの親指くらいの大きさでした。この赤ちゃんには呼吸器官に深刻な問題があったので、医師たちはこの子が今夜一晩を乗り越えることはできないだろうと思っていました。

新生児が生きるために闘っているとき、集中治療室は静まり返ります。すべての人、特にその赤ちゃん担当の看護師にストレスが強くなります。今夜はそれがわたしの番だったのです。赤ちゃんの両親は一日のほとんどを付きっきりで、疲労困憊していました。母親は体を休める必要があったために自分の部屋に戻っていました。

この赤ちゃんの個室には生命を維持している保育器、モニター、人工呼吸装置、点滴装置などがありました。赤ちゃんの病状が重く、そのような集中治療を必要としていたので、わたしはその晩はほかの患者さんの担当からは外されていました。わたしは一晩中赤ちゃんにかかりっきりで、投薬をしたり、モニターをチェックしたり、処置をしたり、検査をしたりしていました。

夜がふけるにつれて、わたしはもし自分がこの子の母親だったとしたらどう感じるだろうかと想像してみました。その心痛は耐え難いものでしょう。

わたしはそっと赤ちゃんの顔をふき、小さな手と足に触れました。そしてとても慎重におむつを換え、柔らか

くて新しい毛布の中にくるんであげました。わたしのこの小さな患者さんのためにはかに何ができるだろうと考えました。この子の母親なら何をしてあげるのかしら。天の御父はわたしに何を望んでおられるのでしょうか。

この尊い、汚れのない小さな霊は、もうすぐ天の御父のところに戻ろうとしているのです。この子は怖いのかしらと思いました。そして自分の子供たちのことを考えました。子供たちがまだ小さく、怖がっているときには歌を歌ってあげたものでした。「神の子です」が子供たちのお気に入りでした。涙をこらえながら、わたしはこの赤ちゃんに歌ってあげました。

看護師として、わたしは赤ちゃんに付いているチューブと赤ちゃんの血液を点検し、呼吸数を数え、心音を聞き、モニターの数値を確認しました。末日聖徒として、わたしは日の栄えの霊を^ま目の当たりにし、救いの計画に驚嘆しました。

夜が深まるにつれ、赤ちゃんの症状は悪化していきました。ついに、肺に出血が起こるまでに症状が進んでしまいました。

涙をこらえながら、わたしはこの赤ちゃんに「神の子です」を歌ってあげました。

朝になると、わたしの小さな患者さんは静かに亡くなりました。赤ちゃんは母親の腕を離れ、「〔彼〕に命を与えられた神のみもとへ連れ戻され」たのです（アルマ 40：11）。

その晩、わたしは救い主と天の御父に近づくことができました。主が人類に対して抱いておられる愛について、また主のわたしに対する愛について、深い理解が得られました。わたしが救い主に対して抱いた愛の深さを思い、驚きさえしました。そして一日一日、一呼吸ごとにもっと親切に、もっと優しく、もっと寛大に、もっと思いやり深くになりたい、もっとイエス・キリストのようにになりたいという望みを抱きました。■

バーバラ・ウィンター
（アメリカ合衆国、アリゾナ州）



聖約は 永遠です

愛ある天の御父と交わした聖約の一部として
自分が下した決断については、
世の人が何と言おうと関係ありません。

マルタ・バレンシア・バスケス

わたしが10代のとき、若い女性の会長が一人一人の若い女性に贈り物をくれました。それは神殿の写真でした。彼女は清い生活を送ることや聖約について、わたしたちに教えてくれました。そしていつか神殿に行くという目標を立てるように勧めてくれました。

わたしはその姉妹の勧めを真摯に受け止め、神殿への備えを第一にすることを決意しました。当時、コスタリ

カには神殿がありませんでしたが、バプテスマを受けたばかりだったわたしは、聖約がどのようなものであるかを分かっていたし、主とさらなる聖約を交わすことを心待ちにしていました。

そのときは、家族は教会員ではなく、我が家で福音は教えられていませんでした。それでも、わたしは自分で福音の標準を学び、それを守っていこうと決心しました。備えの中には、早朝に開かれているセミナーに出席す

ることも含まれました。16歳になるまでデートをしないことも含まれました。そして、純潔の律法に従うことも含まれました。もちろん、これは同年代の仲間に人気のあることでも、よく見られることでもありませんでしたが、主と聖約したことだからきっと守れると思いました。

セミナーや個人で聖文を学ぶことで、貞節を守り、清い生活を送りたいという決意が強くなりました。特に、2,000人の若い兵士たちの話に感動したのを覚えています。アルマ書第53章20節から21節には、この若者たちについてこう書かれています。「非常に勇敢であり、体力と活力がみなぎっていた。しかも見よ、それだけではなく、彼らは託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす者たちであった。



ヤングアダルトの 強さのために

「一つだけ尋ねます。皆さんはまことの生ける預言者に従いますか。それとも、従いませんか。

すべてはこの簡単な選択につながるのです。教会の道徳的な標準ははっきりと『若人の強さのために』の中で説明されています。皆さんの多くはすでに

若い男性や若い女性ではありませんが、この冊子の標準は今も皆さんに当てはまります。何であれ、教会の道徳的な標準に反するものを読む人は、自分自身と自分の知恵を神の預言者の勧めよりも優先していることになり、それは実に浅はかな行動です。人が、自分の方が神やその御言葉よりも賢い、あるいは与えられた勧告は自分に当てはまらないと考え始めた瞬間、滑りやすい下り坂に足を踏み入れたこととなります。そこではす

で多くの犠牲者が出ています。完全に理解しなくても預言者の勧告を受け入れてそれに従うよう努めるには、信仰、すなわち曇りのない、無条件の、ほんとうの信仰が必要です。そのような純粋な信仰は、皆さんが人生で直面するすべての問題において安全な道へと導いてくれるでしょう。」

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老
“When Shall These Things Be?”
Brigham Young University
1995 – 1996 Speeches (1996年), 189



……彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。」わたしも、バプテスマの聖約を含めて、託されたことが何であろうと、忠実に果たしたいと思いました。

エルサルバドル・サンサルバドル東伝道部で奉仕するように召されたとき、聖約についてさらに深く理解できるようになりました。神殿で自分自身のエンダウメントを受けたとき、教義と聖約第82章10節が頭に浮かびました。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」聖約の中で自分が行うべき分を行えば主も御自身の分を果たしてくださるという考えは、伝道中ずっと最善を尽くす励みとなりました。聖約を守るとき、同僚とわたしは働く中で祝福を受けました。

**バプテスマのとき、そして神殿の中で
わたしが交わした聖約は、
それを交わした日と同じように
今日も有効です。**

伝道は何年も昔のことですが、今でも聖約を守ることによって力を受け続けています。その後、わたしはコスタリカ・サンホセ神殿で7年間奉仕する祝福を受けました。神殿ワーカーとして奉仕することで自分の交わした聖約を定期的に思い出しました。若い女性の組織で奉仕したときにも、聖約を思い出す機会がありました。それは自分が指導者から教えてもらったように、若い女性にも聖約の大切さを教えようとしたときでした。

いつも簡単に聖約を守るわけではありません。例えば、多くの人々は純潔の律法（または場合によって、宗教的な行動そのもの）を時代遅れと見なします。幸いわたしは、自分の信仰を共感してくれない人々や時代の流れから、余計な圧力を感じることはありません。若い女性だったときに、神殿の聖約に備え、それを守って生活するように指導者から勧められたときに感じた気持ちを思い出します。あの日の決意を今日までずっと守ってきました。

わたしの決意が揺らぐことがないのは、自分だけの力で、自分のためにしたものではないからです。愛ある天の御父との聖約の一部として決めたことなのです。世の人々が何と言おうと重要ではありません。わたしは主の戒めを守ると約束しました。これは名誉にかかわることなのです。バプテスマのとき、そして神殿の中でわたしが交わした聖約は、それを交わした日と同じように今日も有効です。神との聖約は永遠です。

神がお命じになった生き方は必ずしも簡単ではありませんが、可能であることを証します。わたしたちは聖約を守ることで自信と力を得られます。そして、天の御父がわたしたちを決してお見捨てにならないことを確かに知ることができます。主がついていてくだされば、わたしたちは何事でも行う力を持つでしょう（モロナイ7：33参照）。■

やっと 耳を傾ける

匿名

大学の時、わたしは家から遠く離れた場所で、やりがいのあるインターンシップに参加する機会に恵まれました。その近くに昔の友達が住んでいました。わたしたちは同じ信仰を持っていなかったものの、それぞれの違いを気にすることなく、親しくつき合っていました。

わたしが初めてマデリーン（仮名）と出会ったのは、わたしたちが、末日聖徒としてすばらしい模範だったある若い女性と一緒に働いていたときのことでした。御霊がそれぞれの若い女性の間にあるかすかな違いをわたしに指し示し、ささいな選択でも将来進む方向が決まってしまうということを、指摘してくれたのを覚えています。実は、この霊的な印象はその後何年にもわたって覚えています。

数年ぶりに連絡を取り合ったマデリーンとわたしは、会う約束をしました。約束の夜になると、驚いたことにわたしはなぜかひどく緊張してきました。わたしは彼女が住んでいる町まで列車に乗って行きました。だんだん近づくにつれ、頭と心にこうささやく声が聞こえました。「高い標準を持つ人としかデートしてはならないはずですよ。」

わたしはこう思いました。「これはデートではない。昔の友達に会うだけだ。」御霊は警告を繰り返し、やっぱりデートだとわたしが悟るまで警告し続けました。わたしはその友達が今持っている標準や生活はどのようなものだろうと疑問に思い始めました。わたしは正当化しました。「彼女はわたしが末日聖徒であることを知っている。わたしの標準をよく知っているのだから、問題ないだろう。」

しかし、以前に気づいた「かすかな違い」によって、それぞれの進んできた道が予想以上に大きく違っていか心配になってきました。そこで、御霊の促しに従い、約束を取りやめようと彼女に電話をかけました。彼女の気分を害するのではないかと、とても心配になりました。聖霊の使命について認識していない友達に、霊的な印象についてどのように説明すればよいのでしょうか。

わたしは予定していた一つの活動について良い気持ちがないと説明し、そのことが約束を取りやめる十分な理由になることを願いました。彼女はがっかりして、計画を変えようと提案しました。わたしはほっとして、変

更に同意しました。「御霊が警告したのはその計画のせいだったかもしれない」と思ったからです。しかし、不安はいつまでもなくなりませんでした。

その夜は楽しい時間を過ごしましたが、御霊は時々、先ほどの警告が重要なものであることを告げました。初めは何も心配ないように思いましたが、夜が深まるにつれ、似たような境遇で育っていても、お互いにまったく別の方向に進んでいることがはっきり分かりました。ささいなことについても標準が合いませんでした。彼女が





わずかに 外れていませんか？

「胸躍る旅行を望んで出発したつもりが、座標がほんの数度誤っているために霊的な大

災害に向かって飛んでいるということがあまりにも頻繁に起こっています。」

大管長会第二顧問 ディーター・F・ウークトドルフ管長
「わずかな誤差」「リアホナ」2008年5月号, 58

「彼女は昔の友達で、
これはデートではない。」
わたしは自分に
そう言い聞かせました。
では、なぜ御霊は
そこにいるべきではないと
警告し続けたのでしょうか。

ワインを注文したとき、わたしはアルコールの分はお金を出したくないと伝えました。彼女はわたしの気持ちを尊重して、その分は自分で払ってくれました。

夜がふけるにつれ、わたしの霊的な不安はどんどん大きくなっていきました。夕食が終わると、わたしはすぐにでも立ち上がって帰りたい気持ちでした。もうすぐ最終列車が発車するのを知っていたからです。わたしの家はタクシーに乗って帰れる距離ではありませんでした。わたしが心配していることに気づいた友達は、自分の家に泊まってもいいと言いました。こうなると、御霊は警告を鳴らしっぱなしです。わたしがすでに分かっていることを繰り返して警告しました。

泊まるという選択肢はないのです。

彼女を家まで送りながら、わたしは落ち着いているように見せようと必死でした。

「ほんとうに泊まらなくて大丈夫？」 彼女は尋ねました。もちろん大丈夫です。彼女は強引でも、

不快な感じでもありませんでしたが、御霊は雷鳴よりもはっきりとささやきました。「列車に遅れてはならない」と。

彼女が家の中に入るまで待った後、わたしは発車時刻に間に合うよう駅まで全力疾走しました。誘惑から走って逃げたエジプトのヨセフが思い出されてなりません（創世 39:7-12 参照）。

あの夜の出来事を思い返すと、恐れと感謝の両方があります。起きたかもしれないことへの恐れと、聖霊を伴^{はんりよ}にしていたことへの感謝です。御霊が語りました。そして、わたしはもっと早くそうするべきでしたが、最後には耳を傾けてよかったです。

あの夜、これから起きる状況に対するわたしの見通しは明らかに、主ほどはよく見えていませんでした。イザヤは次のように記録しています。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。

天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」
(イザヤ 55:8-9)

わたしたちが人生で直面する一部の選択は、すぐに決めて、すぐに忘れてしまいます。一方、決して忘れられない教訓を学ぶ選択もあります。聖霊の促しに従うとき、それもすぐに従うとき、イエス・キリストがわたしたちのために備えられた道にとどまりやすくなると知っていることに感謝します。■

「わたしの家族は、教会に集い、家庭の夕べを開き、福音に従った生活をしようと努めています、それでも問題が起こるのはなぜですか。ほかにもっとできることがあるのですか。」

福

音に従った生活は祝福をもたらしてくれますが、だからといって問題に直面しないわけではありません。試練に遭うことで、天の御父に助けを求めるよう促され、それにより信仰を強めることができます。また、御父の助けを受けながら問題を解決することで、義になかった決断を下す方法を学ぶことができます。

今の状況について家族で話し合いましたか。みんなで相談することによって、役に立つアイデアが見つかるかもしれません。解決策を求めて家族で断食し、祈りましたか。聖文や総大会の説教を調べましたか。もしかすると、あなたの家族は状況を改善するために何かを変える必要があるのかもしれません。あるいはあなたはこの試練の間、主が自分を強くしてくださることを確信して忍耐強く待ちながら、とにかく辛抱する必要があるのかもしれません（モーサヤ 24：15 参照）。

ほかの人が原因であなたの家族が苦しみを受けている場合には、その人を赦すように、責めないように努めてください。赦しはすぐに問題を解決してくれないかもしれませんが、あなたの心に平安がもたらされ、問題に取り組みやすくなるでしょう。

敵対する者が家族を攻撃しているのは、家族の強さが教会と地域社会にとって非常に重要だからです。ですから堪え忍び続けてください。教会に集い、家庭の夕べを開き、福音に従って生活し続けてください。従順であれば聖霊を感じることができます。聖霊の導きは、あなたが求めている答えを見いだすために欠かせません。たとえ問題を乗り越えなければならない家族であっても、堅固な家族の中で生活することは、あなたが持てる最も大切な目標の一つです。

与えられている導き手を利用する



家族は試しを受けてからでなければ強められないものなのかもしれません。幸いなことに、わたしたちは問題に独りで立ち向かう必要はありません。天の御父はわたしたちに個人としても家族としても成功してほしいと願っておられます。わたしたちを助けるために、御父は聖文、生ける預言者、さらにほかの教会指導者、そして聖なる御霊など、大切な導き手を与えてくださっています。これらの導き手は、自分や家族に喜びをもた

らす福音の原則を理解し応用するのを助けてくれます。それから、両親に感謝と愛を伝えるのを決して忘れないでください。家族が一つになり、強められ、高められるように主が方法を与えてくださると知っています。家族が神によって定められたものであることを知っています。

ジェレド・L, 18歳 (フィリピン, ミンダナオ)

難問から学ぶ



どんなに努力していても、難しい問題は必ずあります。でも試しはわたしたちの成長を助けてくれるものなのです。すべては問題にどう対処するかにかかっています。鍵はそこから学ぶことです。一歩下がって、周りで実際に起こっていることをよく見てください。自分が受けている試練について祈り、乗り切れるように主が助けてくださるといふ信仰を持ってください。その経験はあなたの強さとなり、今度はあなたがほかの人の力となることができるのです。

マケンジー・C, 18歳 (メキシコ, チワワ)

「家族の宣言」を読む

祈っていてもいなくても、問題は起きます。わたしたちを罰するためではなく、強めるためです。人生で直面する問題は、家族が一緒になって取り組む機会を与えてくれます。わたしの家族はストレスや金銭的な問題を乗り越えるとき、また一緒に過ごす時間を見つけようと努力するときに、互いにより親しくなり、天の御父に近づきます。苦しいときにわたしたちが行う一つのことは、「家族——世界への宣言」を読むことです。自分たちを結んでいる聖なるきず

など、聖約を守ることがどれほど大切かを思い起こすことができます。

アンナ・G, 15歳
(アメリカ合衆国, ジョージア州)

天の御父の御心を受け入れる

天の御父がわたしたちを試される方法の一つとして、わたしたちは問題に直面するのだと思います。忘れてならないのは、神はわたしたちのお父様であって、父親としてわたしたちのことをとても愛し、わたしたちにとって最善のことを望んでおられるということです。問題を乗り越えられる唯一の方法は、根気強くあって、御父の御心を受け入れることであると思っています。

ホセ・C, 18歳 (ペルー, アンカシュ)

主を信じる信仰を持つ



わたしの場合、家族のみんなができることをすべて行っているときでさえ問題が起こるのはなぜだろうと思うときに、助けとなるのが、ヨブの話と、ヨブがどれほどつらい経験をしたかについて考えることです。ヨブ記第19章25-26節には次のように書かれています。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れて神を見るであろう。」ヨブは最もひどい困難の幾つかに直面しましたが、それでもなお自分の贖い主あがなが生きておられることを確信していました。ヨブのように考え、生活することができるとき、自分の問題だけにとらわれることなく、わたしたちには贖い主あがながいて、試練めいりょうにあって引き上げてくださっていることが分かるでしょう。

ミーガン・B, 17歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)

希望をもって問題と向き合う

正しく向き合うとき、問題はわたしたちを強めてくれます。必要なのは、希望と勇気をもって問題と向き合うことです。教会に行き、福音に従って生活しようと努めることによって、あなたはきっと最善を尽くしているでしょう。ですから、抱えている問題は自分を精錬し、最終的により優れた人になるためにあるのだと認める必要があります。また、正しく行っていないことを見つけ、正すように努めてください。頻繁に人を助けるようにしてください。そうするときに、自分の問題がもっと易しいものに見えてくるでしょう。何よりも、いつも主と相談してください。問題について祈り、天の御父に導きを求めてください。

レーモンド・A, 18歳 (ガーナ, アクラ)

最後まで堪え忍ぶ

家族は創造主の計画の中心を成すものですから、当然のこととして、敵対する者はわたしたちが幸福な、福音を大切に作る家族として一緒に生活するのを阻むために、できることをすべて行ってきます。わたしたちは楽な人生など期待できないことや、いったん教会に行って家庭の夕べをすれば誘惑を受けないというわけではな

いことを知っています。難しい状況になったときには、聖文を読み、祈り、家族みんなで話してください。

ダドリー長老, 21歳
(インドネシア・ジャカルタ伝道部)



預言者の勧告に従う

「主御自身と教義による助けがあれば、家族は、様々なチャレンジに隠れた悪の力をすべて察知し、克服することができます。家族に必要なものが何であれ、預言者の勧告に従うときに、家族を強めることができるのです。」

家族を強める鍵は、主の御霊みたまを家庭に招くことです。」

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老
「家族を強めること——
わたしたちに託された神聖な義務」
『リアホナ』1999年7月号, 37-38

次回の質問

「ほんとうに腹が立ったとき、
どうやって
怒りを抑えていますか。」

あなたの意見を2011年5月15日必着で下記までお送りください。

あて先——
Liahona, Questions & Answers 5/11
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メールアドレス—— liahona@ldschurch.org

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

電子メールまたは手紙には、次の情報と同意文を必ず含めてください。(1) 氏名、(2) 生年月日、(3) ワードまたは支部、(4) ステークまたは地方部、(5) 意見と写真の掲載に対する同意文(18歳未満の場合は保護者が書いた同意文——保護者の同意文は電子メールでも受け付けます)。

いつも **主** を覚えなさい



わたしたちは皆, 約束しました。
(ルカ 22 : 19 - 20 ; 教義と聖約 20 : 77, 79 参照)

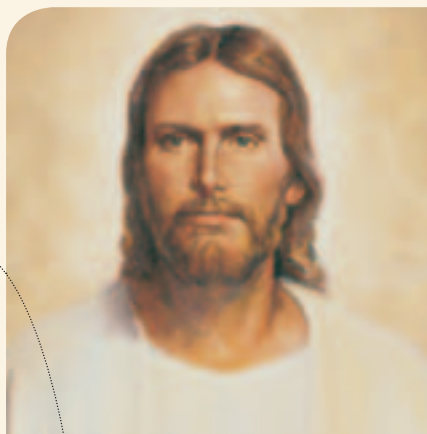
教義と聖約76:22-24

ここには、「小羊は生きておられる」という、イエス・キリストについての現代の証^{あかし}が宣言されています。

数多くの証

この啓示より前にも、復活されたキリストについて数多くの証がなされてきました。以下はその例です。←

- マグダラのマリヤ (ヨハネ 20:11 - 18 参照)
- イエスの時代の使徒たち (マタイ 28:9 - 20; マルコ 16:14 - 20; ルカ 24:36 - 53; ヨハネ 20:19 - 29; 21 章参照)
- エマオに向かっていた二人の弟子 (ルカ 24:13 - 35 参照)
- ステパノ (使徒 7:55 - 56 参照)
- パウロ (使徒 9:1 - 6 参照)
- ニーファイ人たち (3 ニーファイ 11 - 28 章参照)
- モロナイ (エテル 12:39 参照)
- ジョセフ・スミス (ジョセフ・スミス 一歴史 1:16 - 20 参照)



22 そして今、小羊^{こひつし}についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊^{こひつし}についてなす証はこれである。すなわち、「小羊は生きておられる。」
 23 わたしたちはまことに神の右に小羊^{こひつし}を見たからである。また、わたしたちは証する声^{こゑ}を聞いた。すなわち、「彼は御父^{おんちち}の独り子^{ひとりご}であり、
 24 彼^{かれ}によって、彼を通して、彼から、もろもろの世界^{かみ}が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる」と。



小羊は生きておられる

「わたしは、キリストの十字架上の死の悲しみと復活の喜びを経験した人々の証を読み、そして信じています。復活された主の訪れを受けた新世界の人々の証を読み、そして信じています。

現代の神権時代に、今や聖なる森と呼ばれている場所で御父と御子と言葉を交わし、自らの血をもって自分の証を確かなものとした人の証を信じています。」

トーマス・S・モンソン大管長
 「主はよみがえりぬ」『リアホナ』2010年5月号, 89



神のもとに生まれた息子や娘

「世界各地の愛する若い友である皆さんは、平凡な存在ではありません。栄光あふれる、永遠の存在です。……

皆さんが自分の姿を見るとき、不完全さや自己疑念を超越して見ることができ、ほんとうの自分、すなわち全能の神の栄光あふれる息子、娘であることを認識できるよう祈り、祝福します。」

大管長会第二顧問 ディーター・F・ワークトルフ管長
 「水に映る影」(ヤングアダルトのための教会教育システムファイヤサイド, 2009年11月1日), CESfiresides.lds.org で閲覧・視聴可能



もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された

「御父の指示の下で、宇宙の主であるキリストは無数の世界を創造されており、わたしたちの世界はその一つにすぎないのです (エペソ 3:9; ヘブル 1:2 参照)。

宇宙に、人が住む惑星は幾つあるのでしょうか。それは分かりませんが、この宇宙に存在するのはわたしたちだけではないのです。神は、この惑星だけの神ではないのです。」

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル長老 (1926 - 2004 年)
 「キリストの特別な証人」『リアホナ』2001年4月号, 5 で引用

編集者注 — このページの目的は、聖句の完全な解釈を示すことではありません。このページを参考にして各自で学習を深めてください。

再建を通して得たもの

地震で荒れ果てた様子を見たときには悲しくなりました。でもその後、神は生き残った人々と同じように、亡くなった人々のことも愛しておられるということがよく分かりました。

アシュレー・ダイヤー

わたしは中国の上海^{シャンハイ}に住んでいるため、数年前に地震で壊滅的な被害を受けた中国南西部^{しせん}の四川省に行く機会がありました。学校のみんなと一緒に、被災者の家を建てる手伝いをしに行ったのです。わたしたちは一生懸命に働き、れんがを積み上げ、モルタルをシャベルですくい、れんがをいっぱい載せた手押し車を押し、バケツリレー式にれんがを手渡していきました。2日目には背中が痛くなり、手袋は穴だらけになってしまいました。でも、この地を訪れたことはわたしにとって忘れられない経験となり、若い女性の徳質の一つである、自分自身と一人一人^{あかし}が持つ「個人の価値」について証が強まりました。

毎日懸命に働くうちに、自分の価値を信じる思いが強まっていくのに気づきました。自分よりも恵まれない状況にある人々の生活環境が向上するように働いているということで、自分に対して良い気持ちになりました。

被災地の学校を訪ねる機会もありました。到着すると、たくさんのかわいらしい小さな子供たちがわたしたちに向かって走って来ました。このすばらしい幼子^{おきなこ}たちを見たとき、彼らが持つ個人の価値にも気づきました。皆、神の美しい子供たちであり、神がどの子をも愛し、御存じであることを強く感じました。

被災地での活動も終わりに近づいたころ、昼食を取るためにある行楽地に行きました。ところが着いてみると、そこは地震で壊滅していました。これほど無残に破壊された様子は見たことがありません。わたしは泣きたくなくなりました。建物の天

井や壁は崩れ落ち、近くの木々は倒れ、辺り一面がれきの山でした。巨大な岩が山から転がり落ちて一つの建物の側面に突っ込み、天井と壁が崩れ落ちていました。ある戸口の踏み段には、靴が片方だけ落ちていました。

この光景や、この災害で人々が亡くなったという事実について考えたとき、なぜ天の御父はこのようなことが起こるままにされたのか、理解に苦しみました。彼らを愛しておられなかったのでしょうか。その後、若い女性のクラスで話し合ったことを思い出し、確かに御父は彼らを愛しておられたということをはっきりと理解しました。御父は彼らの一人一人を御存じであり、愛しておられました。あの日亡くなった人々は皆、神の子供たちでした。最初は、そのことについて考えるとますます悲しい気持ちになりました。でもその後、亡くなった人々は霊界にいて、再び天の御父のもとに帰れるのだとはっきり分かりました。そう思うと慰めを得、平安な気持ちになりました。

わたしは自分が神の子供であり、大きな価値を持つ存在であることを知っています。わたしたちは皆、天の御父の子供であり、御父はわたしたちのことを個人として御存じです。御父はだれにも想像できないほど深く強い愛でわたしたちを愛しておられます。四川省の地震でひどい苦しみを受けた人々とともに働きながら、こうした理解がわたしの心に深く植え付けられました。■

アシュレー・ダイヤー(右)は2008年に中国四川省で地震が起こった後、被災地の住民の家を建て直すの手伝いました。



聖文の力



TE
BUKA
A
MOROMONA

タヒチに住む
二人の10代の若者は、
試しに聖文を読んでみたときから
人生が変わりました。

教会機関誌
アダム・C・オルソン

□ オマはあまり聖文を研究したいとは思っていませんでした。そしてバイティアレはあまりセミナーに行きたいとは思っていませんでした。二人ともそうする必要はありませんでした。しかし、そうしようと決意したとき、二人の人生は変わったのです。

聖文研究をしましょう

10代の若者が毎週木曜日の夜の2時間を、母親と一緒に聖文を勉強して過ごそうなどと思うことがあるものではないでしょうか。タヒチに住むロオマ・テローアテアは1年前、同じように思っていたことでした。

しかし、今なら10代の若者に、どうしてそうしないのかと聞くかもしれません。

3年間のセミナーの間、ロオマは次のレッスンのために聖文を読んで来るようにという先生の課題をほとんど気にしたことがありませんでした。「聖文を読みたいとは思いませんでした」とロオマは言います。「特に興味を引かれなかったのです。」

しかしロオマは、なぜワードやステーキの教会の指導者が話やレッスンでいつも聖文を使うのか不思議に思っていました。そこで指導者を観察することにしました。すると、ステーキ会長が聖典から引用するときに、とても簡単そうにしていることに気づきました。

ロオマのセミナーの最後の年に、タヒチ・ファアアステーキではセミナーの生徒を二つのチームに分け、マスター聖句の競争をしました。そこでロオマは試しに聖文を読んでみようと思いました。

そこからロオマと母親との毎週の勉強が始まりました。毎週木曜日、二人は次の日にあるマスター聖句の競争のために、大切な聖句の場所を覚え、そのうちの多くを暗記することまでしました。

そのときから、ロオマの周りでの変化が起り始めました。まず、聖文研究によって母親との関係が強くなりました。そして、聖文が教えていることと、現代

ロオマ・テローアテア(下)はセミナーのクラスの友達と一緒に、隣のモーレア島(左)に行って聖文の知識を試したとき、結果は重要ではありませんでした。ロオマはもうすでに勝者となっていたのです。



熱心に学ぶ

「毎日聖文を読んで、その教えを生活に応用する方が、短期集中型の勉強よりかはるかに効果があります。聖文の中で説かれている教訓に慣れ親しんでください。……それらを、あたかも自分に話されているかのように研究してください。実際、わたしたちに語られているからです。……

……もし聖文を熱心に学ぶなら、誘惑を回避し、聖霊の導きを受けてあらゆることを行う力が増すでしょう。」

トマス・S・モンソン大管長
「最高の自分になる」
『リアホナ』2009年5月号, 67-68

の世の中で起こっていることの類似点を見つけるようになりました。読んでいることについて祈ると、それが神から出たものであると分かりました。

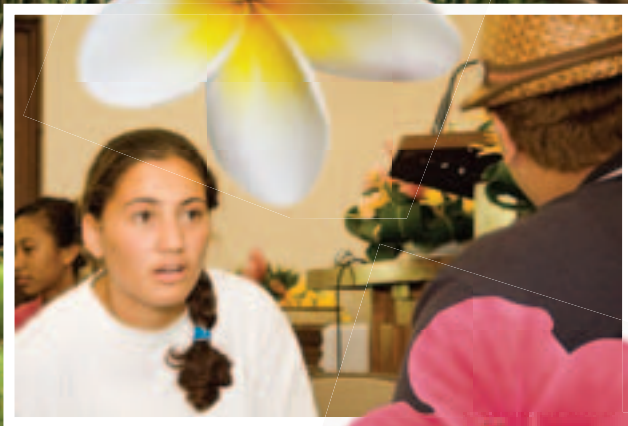
また、ロオマのおかげでステーキのマスター聖句の競争でチームが勝つことができました。

ロオマは聖文研究によって学んだ教訓を祝福として得られていることを実感しています。「モーサヤ書第2章24節では、主が命じられることを行うならば、すぐに祝福を受けるとベニヤミン王が教えています」とロオマは言います。ロオマが受けたいちばんの祝福は「今年、聖文を学んだ後に、モルモン書が真実だと分かった」ことです。

わたしに指図しないで

バイティアレ・ピトは新しい学年が始まったばかりのころ、まだ教会の会員ですらありませんでした。それでは





タヒチに住むバイティアレ・ピトは
聖文を研究すると決めてから、
それによってもたらされる祝福に気づき始めました。

なぜセミナーに一度も行ったことのない新会員がファアアステークのマスター聖句の競争でチームの優勝に貢献できたのでしょうか。

「経験がまだ浅いということは心配していませんでした」とバイティアレは言います。「宣教師のレッスンでたくさんの聖句を学んでいたからです。」

バイティアレの父親が突然他界し、ワードの伝道主任が宣教師をバイティアレの家に連れて来た後、家族のほとんどがこの教会に改宗しました。宣教師は、家族の一致と家族が永遠

と一緒にいることについて話してくれました。「それはわたしの家族に大きな変化をもたらしました」とバイティアレは言います。

しかし自我の強い17歳の少女を必ずしも変えたわけではありませんでした。「バプテスマを受けた後、セミナーに行くべきだとみんなに言われました」とバイティアレは言います。「でも他人に指図されるのが好きではなかったので、しばらく行っていませんでした。」

けれどもそのうちに、バイティアレはセミナーに行こうと思い、いつの間にかセミナーを楽しんでいました。マスター聖句の競争ではロオマと同じチームになりました。

バイティアレは初め、聖文を読むという課題をやらうとしませんでした。

しかしやろうと決めたとき、たくさんの祝福があることがすぐに分かりました。

「聖文はとても役に立ちました」とバイティアレは言います。「聖文から多くのことを学びました。」祈りは大切で、天のお父様は祈りにこたえてくださるということも学んだことの一つです。

また、何かに取り組むとき、例えばセミナーに行ったり聖文を読んだりするとき、しなければならないから、あるいはするべきであるからという理由でするのではなく、自分で決めるとき、容易に続けられることを学びました。

学年が終わった今、バイティアレはセミナーに行って聖文を学ぶことを選んでよかったと思っています。「聖文を読むとき、祝福を受けることをわたしは知っています。」■

祝福文の中のヒント

スコット・タルボット

わたしはテキサス州ヒューストン南伝道部で、スペイン語を話す宣教師として伝道しました。ある日、同僚とわたしは教える人を見つけるために戸別訪問をしていました。わたしたちがある家を訪れたとき、その家の古びた木のポーチには大きな穴が開いていました。

年配の女性が玄関に出て来て、中に入れてくれました。女性はわたしたちが何者で何をしているのかをほんとうに理解したのか分かりませんが、とても礼儀正しい人でした。最初のレッスンを教え始め、事は順調に進んでいるように思えました。すぐにわたしがジョセフ・スミスと最初の示現について教える番になりました。すると、女性の顔には次第に困惑の表情が浮かんできました。明らかに、わたしが説明しようとしたことを理解できていないようでした。

それまで話してきたことと、そのうちどれくらい理解しているかについて幾つか質問した後、彼女が最初の示現の概念をつかんでいないことになりました。大変な一日でした。宣教師がいちばんがっかりするのは、人に真実であると何としても知ってもらいたいことがまったく理解されないことです。

わたしの感情が怒りに傾きかけたその瞬間、祝福師の祝福の短い一節が頭に浮かびました。将来の家族について書かれたところで、将来の子供たちに福音の概念を教えるようにと勧告されている箇所でした。その文章が頭をよぎったとき、子供に教えるのと同じように

その謙虚な女性を教えなさいと御霊がわたしに言っているのが分かりました。わたしはもっと分かりやすく、そしてもっと愛をもって教え始めました。

伝道の備え

若い男性の皆さん、わたしは皆さんに宣教師として奉仕する準備をするよう勧告します。いつも清く純粋で、主を代表するにふさわしくあってください。健康と体力を維持してください。聖文を研究してください。セミナーやインスティテュートがある地域では、それに出席してください。宣教師の手引きである『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に精通してください。」

トーマス・S・モンソン大管長
「再びともに集い」
『リアホナ』2010年11月号、5-6

自分の子供たちが居間に座ってわたしを見上げ、父親であるわたしが預言者ジョセフ・スミスについて教えている様子を思い浮かべました。すると、女性の表情が変わり、わたしは驚きました。眉が上がり、目が輝きだしたのです。困惑した表情は、興味と驚きの表情へと変わっていきました。天の御父とイエス・キリストがジョセフ・スミスに姿を現された話を説明すると、彼女の目から涙があふれ、頬を伝いました。部屋は御霊に満ち、落胆は大きな喜びに変わっていました。

わたしはこの経験を決して忘れないでしょう。いつか自分の子供たちにも同じ原則を教え、このときと同じ大きな喜びを再び感じる日が来るのを心待ちにしています。■





十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長



仲保者 イエス・キリスト

皆さんに一つの物語、つまりたとえを話しましょう。

あるものが欲しくてたまらない人がいました。人生でそれに勝る大切なものはなかったのでしょう。彼は望みをかなえるため多額の借金をしました。

そのような多額の借金はしないように、特に貸し主には注意するように警告されていました。しかし、自分の思いどおりにして、欲しいものをすぐ手に入れることの方がもっと重要だったので。借金はいずれ返済できると思ひ込んでいました。

それで彼は契約書に署名しました。借金はそのうちに返せると思っていたので、さして気にもかけませんでした。支払期限は遠い先のことのように思われたからです。今欲しいものを手に入れた。そのことが大切に思われたのです。

貸し主のことがいつも心の片隅にあり、時々借金の一部を返済しました。けれども、決済日のことはまったく考えにありませんでした。

正義か、それとも^{あわ}憐れみか

しかしそうしている間にその日が来て、支払期限が切れました。返済はまだ全部は終わっていません。貸し主が来て、全額支払うように要求しました。

そのとき初めて気づいたのは、貸し主には自分の持ち物を残らず取り上げる権限があるだけでなく、自分を投獄する権限もあるということでした。

「お返しすることはできません。わたしには返済する力がないのです」と彼は告白しました。

「それでは」と、貸し主は言いました。「契約を履行してあなたの財産をもらいます。あなたは獄に入るのです。あなたはこの契約に同意し、自分で決めたのです。契約書に署名したのですから、今こそ履行しなければなりません。」

「支払期限を延ばすか、負債を免除していただくわけにはまいりませんか」と、借り主は請い求めました。「何とかして、財産をそのまま持てるように、そして獄に入らなくてもよいようにお取り計らいください。きっとあなたも、世の中には憐れみが必要だと認めておられるでしょう。どうか憐れみをおかけください。」

貸し主はこう答えました。「憐れみというものは常に、あまりにも一方的で、満足するのはあなただけです。もしあなたに憐れみを施せば、わたしは返済されないことになります。わたしが要求しているのは正義です。あなたは正義を信じますか。」

「契約書に署名したときは信じていました。あのとき契約書はわたしの味方でした。守ってくれると思ったからです。あのとき憐れみを必要としなかったし、永久に必要なとも思っていました。」

「正義が要求するのは、借金を返済するか罰を受けるかです」と貸し主は答えました。「これが律法というものです。あなたは律法に同意したのですから、従わなければなりません。憐れみが正義の働きを奪うことはできないのです。」

わたしたちの仲保者であるイエス・キリストは、わたしたちが支払うことのできない代価を支払うことにより、わたしたちが天の御父のもとへ帰り、一緒に暮らせるようにしてください。

このテーマについてより詳しく学びたい方はアルマ書第42章を読みましょう。預言者アルマが正義と憐れみと贖いについて説明しています。



しかし、永遠の律法によれば、わたしたちの負債を引き受け、代価を払い、わたしたちの救済の条件を取り決めるということを望み、それらを行うことのできる人がいないかぎり、憐れみは施されません。

こうして一方は正義を要求し、一方は憐れみを請いました。どちらも相手が折れなければ主張を通すことはできません。

「もし負債を免除してくださらないならば、憐れみはありません」と借り主は嘆願しました。

貸し主は答えました。「もしそうしたならば、正義はなくなるでしょう。」

二つの律法とも満足できないように思われました。どちらも一見相反するような永遠の原則です。正義を貫き、憐れみも施す道はないのでしょうか。

否、道はあります。正義の律法を完全に満たし、また憐れみをも完全に及ぼすことができます。しかし、この方法には第三者が必要です。そして、今度はそのようになったのです。

借り主の仲介者

借り主には一人の友人がいて、助けにやってきました。友人は借り主をよく知っており、先の見えない人間であることが分かっていました。こんな苦境に陥ってしまうとは愚かなことだと思いました。しかしそうは思っても、やはり借り主を愛していたので、助けてやりたいと思いました。友人は二人の間に入ると、貸し主に向かって次のような申し出をしました。「友が財産を失わず獄にも入らずに済むよう、契約を免除してくださるのでしたら、負債はわたしが肩代わりいたします。」

貸し主が申し出をあれこれ考えていると、仲介者はさらに言いました。「あなたは正義を要求されました。友は支払うことができませんが、わたしがお支払いします。あなたは公正な扱いを受けるわけですから、これ以上請求することはできません。これなら異存はないでしょう。」

貸し主は同意しました。

それから、仲介者は借り主に向かって言いました。「わたしが負債を肩代わりしたら、わたしを貸し主として認めますか。」

「はい、もちろんです。」借り主は泣いて答えました。「あなたはわたしを獄から救い、憐れみを施してくださいました。」

「それでは」と恩人は言いました。「わたしに負債を支払いなさい。条件はわたしが決めます。易しくはありませんが、果たせないほど難しくもありません。方法はわたしが用意しま

す。あなたは獄に入る必要はありません。」

こうして貸し主は全額支払いを受けました。公正な扱いを受け、契約も破られずに済んだのです。一方、借り主は憐れみを受けました。正義の律法も憐れみの律法もともに成就しました。一人の仲介者がいればこそ、正義はその一切の要求を満たし、憐れみも十分に満たされたのです。

わたしたちの仲介者

わたしたちは皆、一種の霊的な負債、つまり借金のようなものを抱えて生きています。ある日、契約の期限が来て、清算しなければならぬ日がやって来ます。今は気に留めないでいたとしても、やがてその日がやって来て差し押さえが迫ると、わたしたちは周りを見渡して絶え間ない苦痛の中、だれかに助けを求めましょう。

しかし、永遠の律法によれば、わたしたちの負債を引き受け、代価を払い、わたしたちの救済の条件を取り決めるということを望み、それらを行うことのできる人がいないかぎり、憐れみは施されません。

もし仲保者がいなければ、あるいは友人がいなかったならば、正義の要求する重荷はすべてわたしたちの肩にかかるのです。罪の大きさや程度に関係なく、わたしたちはすべての罪による負債の全額を支払うよう強要されるのです。

しかしこのことを知っておいてください。榮えある真理はそのような仲保者がいらっしやると明言しています。「神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。」(1テモテ2:5) イエス・キリストを通して、憐れみは永遠の正義の律法を破ることなく、わたしたち一人一人に完全に施されます。

しかし、憐れみは自動的に受けられるものではありません。主との聖約を通して受けるものなのです。そしてイエス・キリストがお取り決めになる寛大な条件によって受けられます。その中で、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマは絶対的な必須条件として含まれています。

すべての人が正義の律法によって守られると同時に、わたしたち一人一人が個人として憐れみによる救いと癒しの祝福を受けることができます。■

「仲保者」『聖徒の道』1977年10月号、487 - 488より



「わたしはこれか
らもずっと天
のお父様やほかの人や
自分に正直でいます。」

わたしの福音の標準

ニヤの選び

マルセル・ニユンギ

実話をもとに書かれました。

ニヤが家の前で遊んでいると、おばさんが家の中からニヤを呼びました。「ニヤ、八百屋さんに行って、夕飯のおかずにつかうニンジンを買って来てくれない?」と、おばさんは言いました。

「いいわよ。」ニヤはうれしそうに言いました。ニヤは、八百屋さんに行くのも、おばさんのお手伝いをするのも大好きでした。

ニヤはおばさんから預かったお金を持って、近くのお店まで歩いて行きました。

「ニンジンをください。夕飯のおかずを作るのに必要なの」と、ニヤはお店の人に言いました。

お店の人はニヤのふくろにニンジンを入れて、値段を言いました。ニヤはその人にお金をわたしました。

「おつりだよ」と言って、お店の人がお金をわたしてくれました。

ニヤはありがとうと言って、帰り道を歩き始めました。そのとき、ニヤは今もらったばかりのおつりを見て「おつりが多すぎる」と思いました。「このお金もらっちゃおうかな。」

でもそこでニヤは足を止めました。「わたしがこのお金をこのままらってしまったら、天のお父様は悲しまれる」と思ったのです。「自分の言うこともすることも、正直にしなくちゃ。」

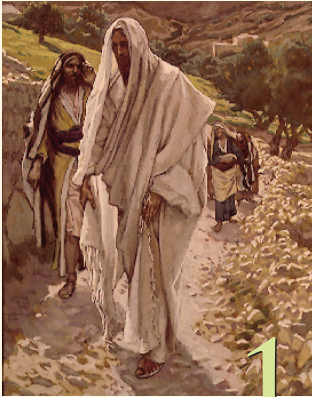
ニヤはくると向きを変えると、お

店にもどって行きました。「おつり、多すぎました」と言いながら、ニヤは、もらいすぎたお金をお店の人に返しました。

お金を受け取ったお店の人は、「君はいい子だね」と言いながら、リンゴを何個かふくろに入れて、ニヤにわたしてくれました。「正直に返しに来てくれてありがとうね。このリンゴを持って帰って、おうちの人たちと食べてね。」

帰る途中、ニヤは温かく幸せな気持ちでいっぱいでした。正直になることを選んだので、天のお父様が喜んでおられることが分かったからです。■





1

土曜日

過ごしの祭という大切な祭日を
わずか6日後にひかえていたとき
のことです。その大切な日に神殿
でせいをささげるために、エル
サレムにはたくさんの人々がやって
来ていました。イエス様は、エル
サレムの近くにあるベタニヤとい
う村に歩いてお入りになりました。
イエス様は、友人のラザロや、マリ
ヤ、マルタとともにその村に5日
ほど滞在することにしておられま
した。マリヤは、イエス様の足に
香油をぬりました。
ヨハネ12：1-3を見てください。



2

日曜日

イエス様はベタニヤからエルサ
レムにいらっしゃいました。そし
て、旧約聖書にあるように、ロバに
乗って町にお入りになったのです。
イエス様を主とあがめる人々は、
「ホサナ」とさけびながら、救い主
にほこりがかからないように、ロバの
行く手にシュロの葉をしました。
神殿をおとすれたイエス様は、ベ
タニヤにおもどりになりました。
ゼカリヤ9：9；マタイ21：1-11；
マルコ11：1-11を見てください。



3

月曜日

イエス様は、人々が神殿の中
でいろいろなもの売り買っている
のをごらんになりました。神殿
を「いのりの家」にすることを望
まれたイエス様は、人々に神殿
から出て行くようにお命じにな
りました。その後イエス様は、体
の不自由な人や目の見えない
人々をいやされました。それ
をねたんだ祭司たちは、イエ
ス様にひどく腹を立てました。
マタイ21：12-17；マルコ11：15
-19を見てください。



4

火曜日

イエス様は、神殿やオリブ山と
呼ばれる近くのおかたで、人々
をお教えになりました。祭司
たちは、イエス様を殺す計画
をくわだてました。イエス
様の弟子の一人であったイ
スカリオテのユダは、銀貨30
枚でイエス様を祭司たちに引
きわたす悪だくみに乗ってしま
いました。
マタイ25：31-46；26：14-16
を見てください。

復活祭の週

イエス・キリストが十字架
にかかり、復活されるま
での1週間に何が起こ
ったかを学んで、復活祭の備えをしま
しょう。復活祭の8日前から1日
ごとに起こった出来事を、聖文を
読みながら学んでいくことにしま
しょう。

せかいじゅうの 子どものたちの さくひん

「ふくいんは わたしの せいかつを しゅくふくして くれます」という
だいめいの びじゅつてんに しゅっぴんされた
せかいじゅうの 子どものたちの さくひんから



アンドレサ・A, 10才 (ブラジル)

これから「わたしたち
のページ」には お
友だちの さくひん
が しょうかいされるので 見
てください。そのほかの さく
ひんについては www.liahona.lds.org を見てください。



ダーシャ・K, 11才 (ウクライナ)



セニフ・F, 9才 (メキシコ)



ダニエル・S, 5才 (フランス)



チュン・チ, 6才 (台湾)



ベス・B, 5才 (カナダ)



カレン・L, 6才 (ボリビア)



ナタリー・S, 9才 (グアテマラ)

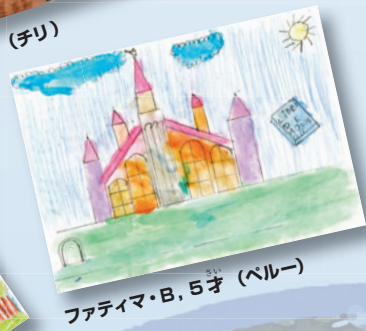
カロリーナ・A, 7才 (ペルー)



サラ・R, 9才 (アルゼンチン)



レオナルド・T, 8才 (チリ)



ファティマ・B, 5才 (ペルー)



リー・W, 9才 (ポーランド)



アティソン・O, 10才 (ベトナム)



アリーナ・S, 8才 (ウクライナ)



パネッサ・G, 11才 (メキシコ)



グエン・R, 12才 (フィリピン)



エルテネジャルガリーノ・O, 8才 (モンゴル)



リー・J, 11才 (タヒチ)



アマンダ・G, 12才 (エクアドル)



マルティナ・F, 11才 (アルゼンチン)



アドリアーナ・B, 10才 (エクアドル)



ホセ・V, 5才 (ペルー)

どうすれば 世の中の わるいものから 遠ざかっていることが できるでしょうか

「邪悪がはびこる世界で正しい生活を送る方法」『リアホナ』2004年5月号, 100 - 102 から。

とくべつな しょうにん



じょうに
十二としていん会の
リチャード・G・
スコットちょうろうは、
このもんだいについて
いくつかの 大切なことを
はな
話しています。

サード・マン・イン・ザ・ヒル

せいなるみたまを 通して
あたえられる こじんてきな
みちびきを もとめ、耳を
かたむけてください。

てん
天の お父さまは、せいぶんを ようい
し、わたしたちを ささえるために し
んせいな みちびきを あたえつづけて
おられます。この たすけによって、じゃ
あくの はびこる よに あっても やす
らかに また こうふくに くらすことが
できるのです。

おも
思いと ころ
心を かみさまに ひたす
ら むけているならば、みなさんの
まわりの せかいで 何が おきよ
うとも、かみさまは ゆたかで み
ちたりた 生活を おくれるように
たすけてくださいます。

てん
天の お父さまが わたしたちを まもる
ために 作られた こうふくの 計画に
したがうことにより、りっぱな、みのりの
多い、ただしい 生活を おくることが
できます。

いま
今 たいへんな ことが いろい
ろ あるかもしれませんが、しん
りの てつの ぼうに しっかり
と つかまっています。み
なさんは、自分が 思う いじよ
うの しんぽを とげています。

こんげつ
 今月の しよとうきょうかいの テーマについて
 もっと 学ぶために この レッスンと かつどうを
 つかうと いいでしょう。

イエス・キリストは わたしの すくいぬし, あがないぬしです

アナ・マリア・コバーン, クリスティーナ・フランコ

「わたしたちは、
 キリストの しよくざいにより、
 ぜんじんるいは ふくいんの りっぼうと
 ぎしきに したがうことによつて
 すくわれうると しんじる。」
 (信仰箇条1:3)

あなたが とても だいすきな
 ひとに なにか あげる とし
 たら 何を あげますか。
 すくいぬしである イエス・キリスト
 は、わたしたちを とても あいして
 おられるので、わたしたちのために
 ご自分の いのちを ささげられま
 した。

てんのお父さまは、わたしたちが
 つみを おかしたり まちがったこ
 とを したりすると、にとど てん
 の お父さまと いっしょに
 すめなくなることを ごぞん
 じでした。そこで むすこ
 である イエス・キリスト
 は わたしたちの すくい
 ぬしになると ご自分
 から もうし出られたの
 です。イエスさまは まっ
 たく つみを おかさずに
 生きることが おできに
 なる かた なので、てん
 の お父さまは わたしたちの
 すくいぬしとして イエスさま
 を おえらびに なりました。

わたしたちを しと つみから
 すくうために、イエスさまは くるしみを
 をうけ、なくなられました。この あ

いに みちた 行いを しよくざいと
 います。この しよくざいの おか
 げで わたしたちは つみを くいあ
 らため、ゆるしを うけて、イエスさ
 まの ように きよく けがれないも
 のに なることができます。

イエスさまは じゅうじかに かけ
 られ、なくなりましたが、3日後に
 ふっかつされました。よみがえられた
 のです。イエスさまが ふっかつされ
 たように、わたしたちも ふっかつす
 ることができます。つまり、わたし
 たちの にくたいと れいが ふたた

び 一つに なつて えいえんには
 なれることが なくなるのです。

イエス・キリストは、まことに わた
 したちの すくいぬし、あがないぬし
 です。イエスさまは、わたしたち す
 べての 人にとつて かんぜんな
 もはんです。イエスさまは わたしたち
 に、おたがいに 親切に するよ
 うに 教えられました。また どのよ
 うに ほうし し合えばよいかを 教えられ
 ました。もっと よくなるための ほう
 ほうも 教えていただきました。わた
 したちは イエスさまの ように かんぜ
 んには なれないかもしれませんが、
 いましめを まもり、せい
 いっぱい がんばるこ
 事によつて、いつの日か
 てんのお父さまと イエスさまの
 もとに もどつて いっしょに
 すむことが できます。わ
 たしたちは 毎日 イエ
 ス・キリストに したがつ
 て 生きることが 大
 切です。■



かつどう

てんせん
 点線を たどつて、から
 になった
 はかの 前に 立つ マリヤの 絵を
 かんせい させましょう。その 絵に
 いろ
 色を ぬつてください。この 絵を
 見る たびに、イエス・キリストが わ
 たしたちの すくいぬし、あがないぬし
 であることを おも だすことが でき
 ます。



いえ 家に いることが しあわせ

きょうかい
教会きかんし

チャド・E・ファレス

ブンタと ネアトは、カンボジアの シエムレア
ブに すんでいます。

兄の ^{あに}ブンタは 8才に なった とき、
バプテスマを うける けっしんを しました。ネアト
も 8才に なったら バプテスマを うける つもり
です。「せいいいを うけたいです」と ネアトは ^い言
います。

ブンタと ネアトは、ほかの ^{ひと}人のために ^{なに}何かを
するのは ^{たいせつ}大切なことだと ^{かんが}考えています。ブンタは、
大きくなったら ^{おお}せんきょうしに なりたいと ^{おも}思っ
ています。ネアトは、「おばあちゃんせんきょうし」、つ
まり、ねんぱいの ^{いま}せんきょうし になるのが ^{いま}今か
ら ^{たの}楽しみで しかたありません。■



ブンタと ネアトは、
たくさんの ^{じかん}時間を
いっしょに ^{すこ}すごし
ます。二人は、おた
がいや ^{かぞく}かぞくに
いつも ^{しんせつ}親切に し
ようと ^{こころ}心がけてい
ます。

ふたり 二人が すんでいる 町には
むかしに たてられた ゆう
めいな たてものを 見るた
めに せかい中から おおぜ
いの 人が やって来ます。
でも **ブンタ**と **ネアト**は、
いえに いて かぞくと すこ
すのが いちばん しあわせ
だと おも っています。



ブンタと **ネアト**には、外に ^{そと} べんきょうするための
とくべつな ^{ふたり} ばしょが あって、二人は ^{そと} そこで ^{ふたり} せい
ぶんを ^{ふたり} 読んだり、しゅくだいを ^{ふたり} したり、『リアホナ』
を ^{ふたり} 読んだりします。**ブンタ**と **ネアト**は、せいぶんを
読むのが ^{ふたり} すきです。二人は ^{まいにち} 毎日 ^{ふたり} せいぶんを ^{ふたり} 読む
ように しています。**ネアト**は、リーハイの ^{ふたり} ゆめの
ところを ^{ふたり} 読むのが ^{ふたり} すきです。**ブンタ**は、ニーファイ
について ^{ふたり} 読むのが ^{ふたり} すきです。



ネアトは、おはじきで ^{ふたり} あそぶ
のが ^{ふたり} すきです。**ブンタ**は、ど
んな ^{ふたり} ボールでも ^{ふたり} 見つけると
サッカーを ^{ふたり} して ^{ふたり} あそびます。

いろいろな かっこうを してみました

カアレ・レビル

じつわを もとに かかれました。

「あなたがたは あなたがたの かみ、
しゅの こともである。」
(しんめい 14:1)

1. エリースは いろいろ
な かっこうを してみた
く になりました。おとうさ
んの くつを はいて、お
もちゃの あかい はな
を つけました。

わたしは
おかしな ピエロよ。

3. それで ゆかを
たたいてから
へやに はして
もどりました。

わたし、
ちからもちの
だいくさん。

2. エリースは じぶんの へやに
はして もどりました。きいろい
ヘルメットを かぶって、おもちゃの
ハンマーを つかんで できました。



4. エリースは、きらきら ひかる むらさきと
ぎんいろの ふくを きて、くるくると
まわりながら へやから できました。

6. ねるときは おきにいりの みどりの パジャマに きがえました。
へやを でて、おかあさんの ひざの うえに すわりました。



5. エリースは、おひめ
さまになるのが だい
すきです。そのひ、
エリースは そのまま
ずっと その ふくを
きていました。

わたしは
きれいな
おひめさま。

7.

わたしは エリース。
かみさまの こどもよ。



わたしたちは みんな かみさまの こどもです

どこに すんでいても、どん
な すがた かたちを し
ていても わたしたちは みんな
かみさまの こどもです。うえに
ある まるの なかに かかれて
いる こどもたちと おなじ え
を ちずの なかから さがし
てください。みつけたら ま
るで かこみましょう。

親の皆さんへ

自分の子供の身体的特徴や人格的特性について話してください。その子の特徴は、何でしょうか。天の御父は、わたしたちを皆それぞれ異なる特性を持つ者として創造されましたが、皆神の子であることを説明してください。地図上の子供たちのそれぞれの特徴を見つけられるように助けてあげましょう。





教会のニュース

『手引き』の訓練で 救いの業が強調される

教会機関誌

アダム・C・オルソン

2011年2月に行われた世界指導者訓練集会において、参加者は大管長会および十二使徒定員会会員から、新しい手引きをより効果的に使うための指導を受けた。これは、手引きの導入を発表した2010年11月の世界指導者訓練集会を補うものであった。

そこで強調されたことは、これまで以上に靈感を受けて手引きを使う方法、新しい手引きの教義的土台を理解することの重要性、調整の原則を教会プログラムに応用する方法、救いの業を進めるために手引きの変更事項を応用する方法、そして、評議会における女性の役割であった。

放送には、大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老、ダリン・H・オクス長老、リチャード・G・スコット長老、ロバート・D・ヘイルズ長老、ジェフリー・R・ホランド長老、デビッド・A・ベドナー長老、クエンティン・L・クック長老、D・トッド・クリストファーソン長老、ニール・L・アンダーセン長老、七十人からクレグ・C・クリステンセン長老、ブルース・D・ポーター長老、W・クレグ・ズウィック長老、そして中央補助組織会長が参加した。

さらに靈感を受けて手引きを使う

アイリング管長は今回の集会を「手引きをより効果的に使う方法を知る、2度目の機会」と呼び、啓示を受ける力を高めるように指導者たちを励ました。

「御霊の助けによってのみ、主が意図し

ておられることを読み取って理解できます」とアイリング長老は語った。「……日々の奉仕で必要な啓示を受け続けるのを期待することは、あるいは望むことさえ、現実的ではないと思うかもしれません。確かに信仰と熱心な働きがなければ与えられませんが、可能なのです。」

アイリング管長は、指導者たちが自分に与えられた「命の言葉を理解して従う」ために努力し祈るなら、主は指導者が主に代わって能力以上の奉仕と指導を行えるよう助けてくださると約束した。

手引きの教義的土台

オクス長老は次のように述べている。「『手引き』は教義的で以前の手引きよりも簡潔です。多くの主題について、規則や指示を与えることが控えられているからです。その代わりに、原則が述べられ、指導者が靈感を受けて地元の状況に合わせて……実施できるようになっています。」

『手引き第2部』の初めの数章には、手引きの原則と方針を理解して応用するための教義的土台となる事柄が述べられている。そのためにベドナー長老とクリストファーソン長老は、その後の章に採り上げられている方針を調べるときに、最初の数章を読まずに次に進むことがないように注意を促した。

ベドナー長老は、新しい『手引き』は「原則を基本としていて、応用事項の記載が少ないため、……霊的な対応と綿密さがいっそう多く求められます」と述べた。

調整の原則

ネルソン長老はこう述べた。「手引きの中で、大管長会と十二使徒定員会によって確立された教義、聖約、方針に照らして、逸脱する箇所はありません。ただし、地元の状況に合わせて一部の



「『手引き』は、
皆さんがそれを使って、
永遠の命への道を選ぶように
ほかの人々を導くとき、
皆さんの宝物となります。
それが手引きの目的です。」

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

活動を変更することは認められています。」

ポーター長老によると、第17章の「統一と調整」は、地元指導者がプログラムを調整すべき時を御霊に従って判断できるように与えられている。この章は、変更できないものと、調整が認められる5つの状況を挙げている。すなわち、家族の状況、限られた交通手段と連絡手段、少人数の定員会やクラス、指導者の不足、保安の5つである。

「適切な調整で教会が弱まることはなく、逆に強まります」と、ポーター長老の言葉を七十人のW・クレーグ・ズウィック長老が代読した。靈感を受けて調整を図るとき、地元指導者は妥協して理想を下げているように感じるべきではない。「教会のすべてのユニットは、神の子供たちのために備えられている救いと昇栄に必要な教義、儀式、神権の力、御霊の賜物にあずかることができる」とポーター長老は書いている。

救いの業

『手引き第2部』が全面的に改訂されたのは、救いの業をさらに進めるためである。アイリング管長は次のように語った。「手引きは、皆さんがそれを使って、永遠の命への道を選ぶようにほかの人々を導くとき、皆さんの宝物となります。それが手引きの目的です。」

特に第5章の「ワードおよびステークにおける救いの業」では、旧手引きで別々に扱われていた会員伝道活動、改宗者の定着、活発化、神殿・家族歴史活動、福音を教えるという項目が一つにまとめられている。

ベドナー長老はこう語った。「パウロは、この時満ちる神権時代にすべてのものがキリストにあって一つに集められると述べました。一つの業です。」(エペソ1:10 参照)

例えばベドナー長老は、これまで一部の人たちの間でそれぞれ独立した教会の使命として考えられていたものの幾つかは、「領域は違っても同じ業であり、すべて一つの業」であると説明した。伝道活動とは、福音を宣べ伝えることと神聖な儀式



写真クレーグ・ズウィック © 2011

を受けて聖約を交わすように人を招くことである。また、定着、活発化、教えることを含む聖徒の完成は儀式と聖約を重んじるよう人を招くこと、そして、家族歴史と神殿活動を通しての死者の贖い^{あがな}は、儀式を受け、聖約を交わす機会を亡くなった人に提供することである。

手引きに加えられた変更事項は、ワード評議会^{あがな}で働く定員会指導者と補助組織指導者が、ただ単に自分の定員会や組織について考えるだけでなく、すべての会員の霊的福祉に対して共同責任を負っていることを理解できるように促すものである、とホランド長老は述べた。

クック長老は、『手引き第2部』における方針の変更の幾つかが、どのように救いの業に貢献しているか明確に説明した。

特に、福祉委員会が廃止された今、ビショップとワード評議会が福祉の必要を満たすことが重要であると強調し、定員会会員に勧告を与えるというメルキゼデク神権指導者の役割が重くなったことを説明した。さらに今回の変更によって、神殿に入る十分なふさわしさを備えていない父親でも、特定の状況において家族の儀式や祝福に加わることができるようになったことを明確に説明した。

「わたしたちはプログラムの実施や組織の運営を行う企業にいるわけではありません。それは必要ですが、それだけでは十分ではありません。これは救いの業です。儀式と聖約について考え始めた

救いの業において神権指導者は、個人それぞれが次にどの儀式を受ける必要があるのか、そしてその準備を支援するにはどうすればよいか考えるべきである。

補助組織のパネリストたちが

新しい訓練資料を利用する

2011年世界指導者訓練集会で、インターネットで得られる新しい訓練資料を利用した一連のパネルディスカッションに、教会の中央補助組織会長が参加した。

『指導者訓練ライブラリー』(The Leadership Training Library)は世界各地で奉仕している指導者の実際の体験を集めたもので、『手引き第2部』に指示されている原則を実践するための手本となっている。ブラジル、イギリス、グアテマラ、韓国で撮影されたこれらのビデオは、現在翻訳が進められており、2011年後半にはインターネットでの閲覧が可能となる。

これらのビデオを使いながら、中央補助組織会長は十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老、ニール・L・アンダーセン長老、七十人のクレグ・C・クリステンセン長老の指導の下に、『手引き第2部』にある3つの重要な原則について話し合った。

1. 霊的に備える

集会を計画していた韓国の扶助協会指導者が熱心に求めて靈感を受けた事例を見た後に、中央初等協会会長のローズマリー・ウィクソム姉妹は次のように発言した。「主がどんなにわたしたちを祝福するのを待ち望んでおられるかについても感動しました。」

中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹とウィクソム姉妹と意見を交換していたアンダーセン長老は次のように言った。「これは霊にかかわる業です。主の方法によらなければ成し遂げられません。」霊的に備えることで個人に焦点を当てることができ、その人の必要に応じた活動やレッスンを実施し、割り当てを与えることができるようになると、パネルディスカッションに参加した指導者たちは語った。アンダーセン長老は「啓示はわたしたちの間にあふれて(います)」と証した。

2. 評議会に参加する

ワード評議会会員が協力して働きかけた結果、ある家族が教会活動に完全に戻ったというグアテマラでの例を見た後で、クリステンセン長老は評議会が協力することについて話し合いを進めた。ベック姉妹、ウィクソム姉妹、中央日曜学校会長のラッセル・T・オスガソープ兄弟、中央若い女性会長のイレイン・S・ダルトン姉妹、中央若い男性会長のデビッド・L・ベック兄弟の、5人の中央補助組織会長全員が話し合いに参加した。

パネルディスカッションの内容は次のようなものであった——評議会会員の協力がワード会員の成長を助ける、評議会会員の活発な働きがビショップの重荷を軽くする、指導者と会員がワード会員に関する主の御心に耳を傾け、それを分かち合い、求める。

3. 人々を教え導く

3番目のビデオは、教会に活発であろうと努力しているイギリスの若い男性に焦点を当てたものであった。ヘイルズ長老の司会で、オスガソープ兄弟、ベック兄弟、ダルトン姉妹が参加したディスカッションでは、指導者が両親と教会の評議会、それに青少年と協力することの重要性を確認した。

ヘイルズ長老は最後に次のように語った。「今日視聴してきた方法とまったく同じように、それら〔ビデオの事例〕について話し合ってください。主に尋ねて……ください。すると、皆さんが助け、力づける方法、受けている召しにあって行すべきことを成し遂げる方法について導きを受けることでしょう。」■

ら、神権指導者は、『この人、またはこの家族の生涯に必要な次の儀式は何であり、その準備をどのように助けられるだろうか』と考えてみるとよいでしょう」とベドナー長老は語っている。

評議会における女性

スコット長老は、女性を評議会に参加させる機会を逃している指導者がいるという懸念を示し、「ワード評議会に積極的に参加することを奨励できれば、姉妹たちのアイデアは常に有益であり、啓発するものとなります」と語った。

指導者は、姉妹の名前を呼んで発言を求めたり、意見や提案に対する感謝の気持ちを表すことで、彼女たちの発言を促すことができる」とスコット長老は説明した。

これらの指針に従う「神権指

インターネットで得られる追加情報

2度にわたった世界指導者訓練集会の放送を音声、ビデオ、文字で以下のアドレスで見ることができ、lds.org/menu/service/serving-in-the-church

『手引き第2部』はlds.org/handbook/handbook-2-administering-the-churchで見ることができ、2011年の半ばには、新しい指導者訓練集会資料をlds.orgのServing in the Church(教会での奉仕)で見ることができるようになる。



指導者会では男性も女性も平等に自由に自分の考えを述べられるようにすべきである、と語る教会指導者。

指導者の家庭には、思いがけない祝福がもたらされ……ます。……このような兄弟たちは自分の家庭において妻が果たす神聖な役割をよく理解するようになります」とスコット長老は語った。

スコット長老は、評議会における全員一致の大切さを教えた。指導者は、全員が一致したと感じてそれを確認したときに採決をとることができる。会員の一致が得られない場合、指導者はワード評議会会員一人一人の意見を求め、意見を述べてくれたことに感謝の意を表し、自らの決断を下し、その決断に対する評議会会員の一致した支持を求める。スコット長老は、ワード評議会の内容を内密にすることの重要性を強調した。

期待される結果

訓練を締めくくるに当たり、ネルソン長老は3つの希望があると語った。簡素化により会員の時間と資源がより効果的に活用できること、神権者一人一人が持つ神権の力が高められて教会員すべての個人と家族を祝福できるようになること、会員一人一人の主の業に対する情熱と弟子としての自覚が増すことの3つである。■

ニュースより

ペリー長老、 グアム最初の ステーキを組織する

2010年12月、十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老はグアムを訪問し、グアム準州で最初のステーキとなるグアム・バリガダステーキを組織した。第二次世界大戦中に合衆国海兵隊員として同地で任務に就いていたペリー長老はグアム滞在中、太平洋戦争博物館を見学し、隣接するサイパン島へも足を伸ばした。グアムには1,971人の会員が住んでいる。グアム準州は教会のアジア北地域の一部である。

末日聖徒の医師たち、 パプアニューギニアで コレラの治療に当たる

2010年末に、オーストラリアから数人の末日聖徒の医師がパプアニューギニア北西部に位置する人里離れた村を訪れ、流行するコレラの治療に当たった。

彼らは数百人の患者を治療し、^{ひんし}瀕死の状態^{あかし}で病院に着いた一人の男性を助けることができた。治療を受けなければ24時間以内に命を落としたであろう人々も数人含まれていた。

人々は陸路で、またカヌーで医師たちのもとへ押しかけた。ブリスベンから参加したデビッド・ウィリアムズとケアンズからのアンソニー・マーラーは、ソゲレ村に到着したその日に

200人以上のコレラ患者を治療したという。困難な状況の中で重労働であったにもかかわらず、今回の体験についてマーラー医師は「医師としての人生で最もやりがいのある経験でした」と語った。

医師の派遣に加え、教会は医薬品と浄水器などの救援物資を送った。被災地に向けてポートモレスビーの教会から食料と石^{せつ}炭^{けん}が送られたほか、ポートモレスビーとブリスベンからは個人用衛生キットが発送された。水処理の専門知識を持つ夫婦宣教師もパプアニューギニアに向かい、救援活動の調整に尽力した。

2011年の ミーチャルのテーマ を紹介するDVD

1月、教会は2011年版「若人の強さのために」DVD「わたしたちは信じます」を世界中の教会ユニットへ向けて配送を開始した。これは、2011年度のミーチャルテーマを強調するために使うことを目的としている。

これは、テーマである信仰箇条第13条を青少年が生活の中心に置くことができるように考えられたマルチメディア満載のDVDで、トーマス・S・モンソン大管長、中央若い男性と若い女性それぞれの会長、音楽、青少年の証、^{あかし}などが収められている。

その中でも青少年の証や意欲を高める経験談が多く収めら

世界の出来事

教会による第9回国際美術コンテストの作品募集

教会歴史博物館は、第9回国際美術コンテストの応募フォームを2011年4月4日よりインターネット上で提供する。応募作品は2011年10月7日までにオンラインで提出し、郵送の場合も同日消印があれば有効である。今年のテーマは「主の驚くべき業を知らせなさい」（教義と聖約65：4）となっている。lds.org/churchhistory/museum/competitionで詳細（英語）と、過去の応募作品から選別したものを見ることができる。

『新約聖書ものがたり』、動画となる

2011年度の教科課程である新約聖書を学ぶための支援として、これまで本として出版されていた『新約聖書ものがたり』が今回、パララックスと呼ばれる技術を使った動画と

なった。65の動画を英語で視聴でき、LDS.orgで使用されている11言語での朗読がMP3に録音されている。2011年中には、それぞれの言語でもパララックスビデオ化される予定となっている。視聴するには、scripturestories.lds.orgからNew Testament Storiesを選ぶ。

バンガロールの若い男性、神への務めを果たす決心をする

インド・バンガロール地方部から30人以上の若い男性がカナカプラの丘に集まり、新しく始まった「神への務め」プログラムについて学び、肉体を酷使する活動から霊的な教訓を得た。ロープと滑車を使って池を渡り、朝のランニング、山登り、懸垂下降（訳注——ロープを使って急な斜面や岩壁を安全に下りる登山の技術）を習い、証会で最後を締めくくった。■

れている。

音楽やメッセージ証は、一年を通して青少年のクラスや集会、活動の質をさらに高めるために活用することができる。

すべての内容はyouth.lds.orgからダウンロードできる。

DVDは中国語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語で視聴できる。■

最新情報

2011年1月号の『リアホナ』で、コートジボワールで外国人宣教師が奉仕しているとお伝えしました（サミュエル・ゴールド「天使の前で」、50参照）。この記事の印刷後、情勢が悪化したために外国人宣教師は別の任地に移動となりました。教会は、宣教師が奉仕しているあらゆる場所の政治情勢を注意深く観察しており、必要なときは宣教師を移動させています。状況の安全が確認されなければ、宣教師が元の赴任地に戻ることはありません。



ナレーションが付き、美しい色の動画作品となった『新約聖書ものがたり』をscripturestories.lds.orgでご覧ください。

読者からの便り

天の御父は重荷を軽くしてくださる

わたしはこの機関誌とその内容のすべてが好きです。中央幹部による記事、特に総大会の話が大好きです。試練の中でも前に進むことができるように、わたしたちを導き、カブけてくれます。

わたしは教会員となって26年たちますが、これまで『リアホナ』はすべて読んできました。過去の号を読み返すことも多いのですが、特に大切にしている記事はデビッド・A・ベドナー長老の「**主の深い憐れみ**」(2005年5月号, 99)です。この記事を読むと、天の御父が深い憐れみをもって幾度も助けてくださり、重荷を軽くしてくださることを思い出すことができます。

イオランダ・バレンチ (イタリア)

教えは主から来る

生ける預言者たちの言葉を読むことができ毎月感謝しています。彼らの教えが主から来るものであり、その教えを実践するなら主が祝福してくださることを知っています。世界の聖徒たちの経験を読み、彼らが重荷をどのように克服しているかを知ること、信仰と証が強められます。

バイロン・ダビド・カルデロン・モスケラ (エクアドル)

ご意見、ご感想を liahona@ldschurch.org にお送りください。掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。■

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。

「いつも御子を覚えるために」20ページ —— クリストファーソン長老の次の勧告について家族で話し合しましょう。「それにはまず、生活の中のあらゆるものをいったん取り除き、それから救い主を中心とした優先順位に基づいて再び戻せばよいのです。」 クリストファーソン長老はわたしたちが「いつも救い主を覚える」ときに与えられる祝福について述べています。その中の祝福の幾つかについて話し合ってもよいでしょう。

「聖文の力」52ページ —— 家族でこの記事を読んだ後に、聖文を読むことや、セミナーに行くことをどのように感じているか、話し合しましょう。聖文の力についての証を日記に書くように勧めてください。子供たちにマスター聖句を研究して暗記するように励ましましょう。

「仲保者イエス・キリスト」56ページ —— 家族でこの記事を読んでいる間、仲保者の大切さが分かるようによく聞くよう言います。もし仲保者が借金のある人を助けなかったとしたら、どうなっていたか家族に聞くとよいでしょう。救い主がわたしたちの仲保者であることに関する聖句を読み、話し合ってみるのもよいでしょう。2 ニーファイ2:27-28と、アルマ42:24-25を読みましょう。

「いろいろな かつこうを してみました」70ページ —— 家族に、仮装するか、あるいはだれか別の人がなったつもりになるように言います。一人一人に何になったか話してもらいます。この記事を読んだ後に、どんな役を演じたとしてもわたしたちはいつも神の子供であることを説明してください。

幸せな時間と永遠のきずな

子供たちがまだ幼かったころ、家庭の夕べの後にゲームを楽しみました。彼らのお気に入りの一つに「象のトランキー」がありました。娘のジョスリンが幼稚園で習ってきた歌にちなんで名付けられたもので、皆でその歌を歌った後、わたしがトランキーになって子供たちを背中に乗せるのです。まず2歳の息子ホルヘが乗り、次に4歳のジョスリン、そして最後に妻のエリザベスがまたがりました。3人を背中に乗せて、わたしは居間をぐるぐる回りました。ほんとうに楽しいひとときでした。

何年かたち、成長した子供たちは二人とも伝道の召しを待っていました。ある日の家庭の夕べで子供たちは「象のトランキー」を思い出したのです。わたしたちは何年ぶりかで歌を歌い、わたしは再び象になりました。最初に息子、次に娘、そして最後に妻がわたしの背中に乗りました。わたしは床に崩れ落ち、大笑いのうちに幕となりました。

そのときの思い出は、預言者たちが家庭の夕べについて教えてくれたことを感謝する助けとなっています。家庭の夕べがどんなに単純なものであろうと、家族と幸せな時間を過ごすこと、つまり、わたしたちの永遠のきずなを強める時間を持つことがいちばん大切であることをわたしたちは学んだのです。■

ビクトール・G・チョーカ・リベラ



いばらの冠, 勝利の冠

教会機関誌

ラリー・ヒラー

8月、聖地での出来事でした。わたしたちを取り囲むようにしてたたずむカペナウムの遺跡は、午後の灼熱の暑さの中でかげろうに揺れていました。そこが人々を魅了してやまない史跡であるというのに、ガイドの話も近くで鳴くセミの声もどこかかけだるようで、わたしの心もうつろになりかけていました。

ところが、ガイドが、わたしたちに日陰を作ってくれていた1本の本を指さしながらぶっきらぼうに「これは、『いばらの冠』の本と呼ばれています」と言った途端、わたしは、はっと我に返りました。わたしは葉に覆われた枝を見上げました。一体どこにとげがあるのでしょうか。わたしは手を伸ばして、用心しながら1本の小枝を近くに引き寄せました。

すると、しなやかな葉の間に確かにとげがあるではありませんか。わたしの親指ほどの長さで、緑色をした、鋭くとがった細いとげは、2、3メートル先からは見えません。しかしその小枝に触れようものなら、だれでも確かに痛みを感じることでしょう。

紫の衣を身にまとい、とげだらけの干からびたつるの冠をかぶせられ、あざける人々の法廷に立たされた救い主を描いた絵を、わたしはたくさん見てきました。そうした絵を思い浮かべていると、突然わたしの心にあることがひらめきました。あの冠の作製を命じられた奴隷か兵士は、単に乾燥してもろくなった小枝ではなく、今わたしの頭上にある木の枝のようにしなやかな緑の枝を使って冠を作ろうとしたのではないかと。さらに、冠の目的は、苦痛を与えるためだけではなく、イエスをなじり、あざけるためでもあったのではないかと気づいたのでした。

古代、かぐわしい月桂樹の葉で作られること



わたしは、
わたしたちの
目に見えない
あらゆる痛み
に救い主が
お気づきになり、
それを癒す力を
持っておられることを、
いばらの冠が
象徴していることに
気づきました。

の多かった冠やリースは、競技や戦いの勝者に与えられたものでした。月桂樹のリースは、王や皇帝のイメージを引き立てるために使われました。恐らく、救い主の額に押しつけられた残酷な冠は、その古代の栄誉ある象徴を皮肉って、

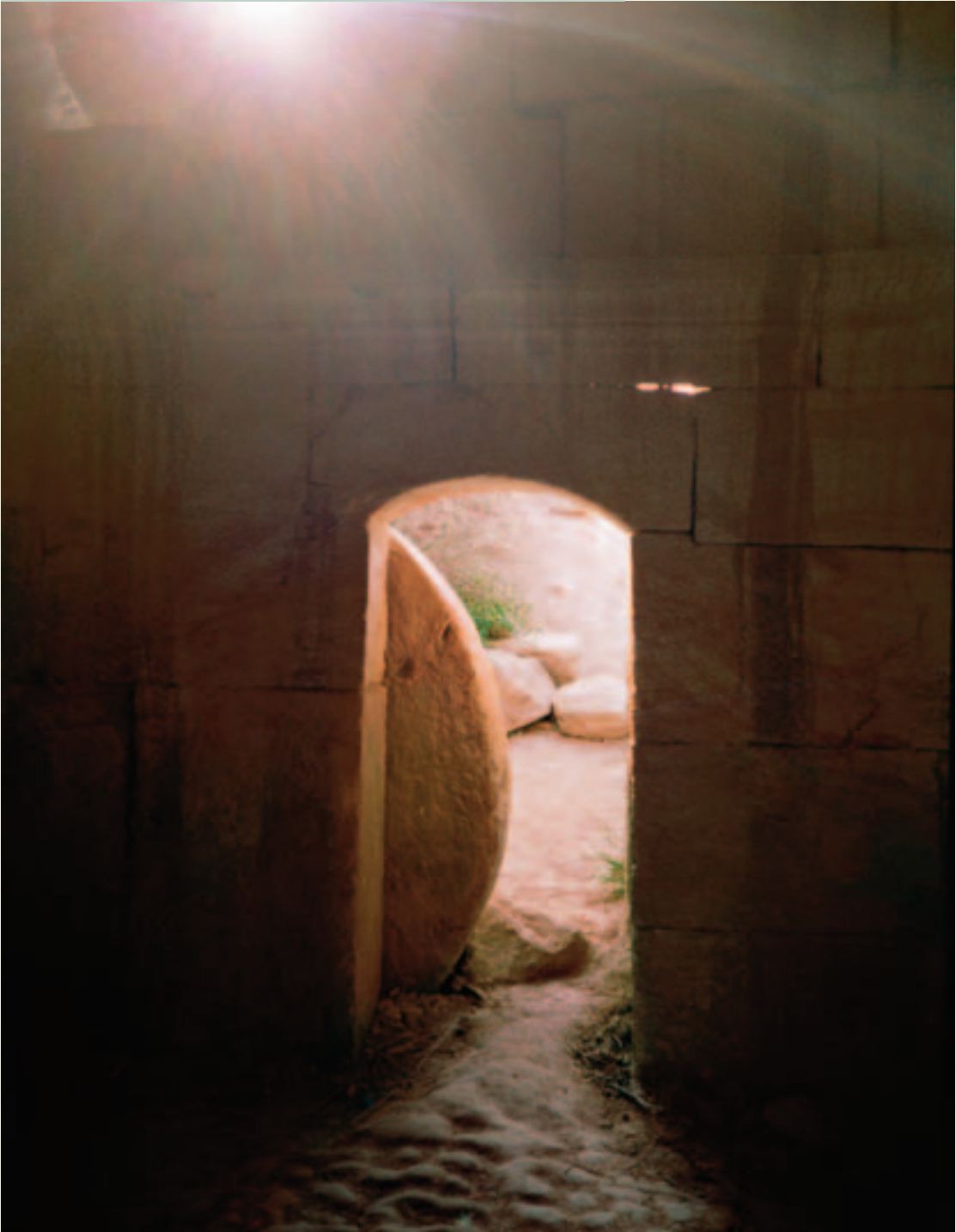
緑色の葉をあしらって作られていたのではないかと思います。これは単なる憶測で、教義的に認められたものではありませんが。しかしこのように心に思い浮かべてみると、贖罪の持つ一つの意味がより鮮明になります。つまり、救い主は、わたしたちの悲しみをお気づきになり、わたしたちを癒す力を持っておられるということです。

主に着せられた衣は、王威をあざける意図を象徴していました。その衣の下には、主を苦しめた鞭や深い切り傷の跡がありました。同じく、葉で覆われたいばらの冠は、本来勝者の栄誉をたたえる冠の

はずですが、実際は激しい痛みを覆い隠していたのでしょう。

ところで多くの人は、目に見えない苦痛を抱えています。賛美歌には「心を探りて 弱きを悟らん」とあります（「われ主を愛して」『賛美歌』134番）。しかし主はちゃんと見ておられるのです。主は、その人にしか分からない痛みをよく御存じです。主は、贖罪と復活を念頭に置きながら、地上における教えと導きの業を全うされました。しかし、主の教えと祝福と癒しを受けた人々はそれを悟ることができませんでした。主の弟子たちさえもそのことに気づくことはできませんでした。

主には、わたしたちの悲しみをほかの人々の目から覆い隠す「衣」や「冠」の奥にあるものがお見えになるのです。「あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられ」た主は、憐れみに満ちておられます。そして、わたしたちが重荷を主の足もとにゆだねるとき、どうすればわたしたちを救うことができるかを御存じです（アルマ7:11-12参照）。主は、どんなに深く隠れた傷も癒すことのできる香油のような力を備えておられます。そして主がわたしたちに差し出してくださる冠は、まことに勝者に与えられる冠なのです。■



「復活の朝」 スティーブン・エドワーズ画

地上での務めを果たしておられたキリストは、弟子たちにこう言われました。「人の子は必ず……殺され、そして三日目によみがえる。」(ルカ 9:22)

主が十字架におかかりになった後、「マグダラのマリヤとほかのマリヤとが、墓を見にきた。

すると、大きな地震が起った。それは主の使が天から下って、そこにきて石をわきへころがし、その上にすわった

からである。……

この御使は女たちにむかって言った、「恐れることはない。あなたがたが十字架におかかりになったイエスを捜していることは、わたしにわかっているが、

もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。」(マタイ 28:1-2, 5-6)



「救い主を覚えることには、主の贖罪しよぐいを覚えることが含まれるのは明らかです。主の贖罪は主の苦しみと死の象徴であるパンと水で表されています。」十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老は、そのように記しています。「わたしたちは、主がわたしたちのためにしてくださったことを決して忘れてはなりません。主の贖罪や復活がなければ、人生は無意味になってしまうからです。しかし主の贖罪と復活のおかげで、わたしたちの人生には永遠の神聖な可能性があります。」「いつも御子を覚える」20 ページ参照

